

京古本やはる

生涯のつきあい

寿 岳 章 子

私と古本屋（何だかこの言い方失礼なようだが、暮らしの中に溶けこんだ日常的表现としてお許し頂きたい）のつながりは、大体三期に分けられる。

第一期はそれこそ幼少のみぎりである。そんな時に小さい女の子がひとりで古本漁りに行くはずもないから、もちろん父を介してである。親子づれで寺町通りなどを散歩しながら、父がふいと本屋に入る——それは、きれいな新本をあきながっている明るく店の奥まで見通しの利く構えの本屋とはちがつて、表から奥へ縦に本棚があつて、店の奥は朦朧と暗く、まるで洞穴のように見えたが「道でしばし待っていると、やがて父は自分の何かと、必ず私のための一冊を抱えて出てくるのであつた。昭和の一ケタ時代、そういう経路を

辿って私の書架におさまった本の何冊かはいまだに私の手許にあつて、若かった父母の懸命な家庭づくりの名残のように私をなつかしからせる。至って読書好きだった私は、こうして随分早くから京の古本屋の世話になったことになる。

第二期は私の東北大時代である。戦局苛烈をきわめた昭和十八年秋からの三年間。武内義雄博士の高弟であつた坂本講師の支那哲講讀のテキストが陳澧の読書記というもので、そんなものをどこで入手するのか不安がついていた新入生たちは、大学のそばの無一文というりっぱな古本屋が全部（といつても四・五人分）そろえてくれたのに大安心だった。その坂本先生もやがて応召、そのまま帰らぬ人となり、二十年の大空襲で無一文もやけ、私たちの下宿も焼け、めい

めいのテキストもみんな消滅してしまつた。

その辛く悲しい大学時代、辛うじての喜びは古本屋まわりであつた。決して豊かではなかったが、少しずつ国語学関係のものを集めて、けっこう書架をいっぱいにしていった。仙台の古本屋は、いかにも土地柄らしく、こけし人形なども置いていた。気に入つたのを一休買つたが、私はけしからんことにそのこけしで炭を割つていた。こけしの材質はきわめて硬く、そんなひどいことをしたのにびくともしなかつた。

それらをすべて戦災で焼いて、手ぶらで京都に帰り、やがて戦後第三期がはじまる。中世日本語の研究者となりつつあつた私がまず古本屋の世話になったのは抄物集めである。しかし、まことに残念なことには、私の五十種そこそこの抄物は大半を伊賀上野の沖森書店の世話になつてゐる。東北大卒業後は私は京大の大学院（旧制）に七年在籍、その間京府大に奉職したが、笹野堅氏の古本能狂言集を大書堂で戦後すぐ買ったような喜

季 刊
第 28 号
京都古書研究会
発 行
〒604 京都市中京区
東洞院六角上ル
京都府古書籍商業協同組合内
振替 京都 0-22132
年間購読料 500円
(送料込)
頒 価 150円

びはあつても、抄物はあまり京都では入手していない。後、私は双六の研究をいささか試み、これも僅かばかり蒐集したが、こつちの大半は大阪の古書店からである。

ここで思いきつて言わせてもらえば、どうも京の古本屋はいささかバイタリティに欠けるのではなからうか。私の抄物入手の第一号は、沖森から得た『碧巖』であつた。私の二十二・三才の頃だったろうか。これは天正の識語のあるなかなか良質のもので、いわば私の研究生活の門出を祝つてくれたようであつた。私はとてもうれしく、なでつさすつしたものだ。そんな喜びを、ねがわくは京都の古書店が与えてくれていたらどんなに嬉しかったらうかと思わずにはおれない。

書物の危機を言われる時代になつたこのごろ。とりわけ古本の世界は伸びるかくずおれるかどつちかのような瀬戸際に立ち至つてゐる。京都の書店諸氏のみごとな立ち上がり心が望まれる。古本店がない京都など信じられない。貯えるべき力は十分貯えられたことと思う。京都の店ならではののみずみずしく力強い活動を私は大いに期待してやまない。

《筆者紹介》京都府立大学教授。大正十三年、京都府生れ。国語学者主な著書に『日本語と女』『暮らしのことばと心』『暮らしの京ことば』

—— 古書のご整理は……… 京都古書研究会加盟店へ ——

赤尾 照文 堂 (京) 電話二二一五八八
石川 古本 店 (京) 電話二二一五八八
井上 古本 店 (京) 電話二二一五八八
其 中 堂 (京) 電話二二一五八八
京 極 堂 (京) 電話二二一五八八
沢 密 堂 (京) 電話二二一五八八
三 密 堂 (京) 電話二二一五八八
シルヴァン 書房 (京) 電話二二一五八八
大 岡 書房 (京) 電話二二一五八八
竹 岡 書房 (京) 電話二二一五八八
谷 方 書房 (京) 電話二二一五八八
東 山 書房 (京) 電話二二一五八八
萩 山 書房 (京) 電話二二一五八八
福 田 書房 (京) 電話二二一五八八
藤 井 文政 堂 (京) 電話二二一五八八
文 庫 堂 (京) 電話二二一五八八
文 庫 堂 (京) 電話二二一五八八
八木 書店 古書部 (京) 電話二二一五八八
山崎 書店 (京) 電話二二一五八八
（株）臨川書店 大阪店 (京) 電話二二一五八八

近代京都にかかわる文献

—『写真でみる京都百年』を編集して—

田 中 真 人

京都の近代史を視覚でもって通覧できるような書の企画にあずかる機会を持ち、それは昨年『写真でみる京都100年』として刊行された(一九八四年一月、京都新聞社刊)。多くの人々から写真を拝借し、またさまざまな刊行物から転載させていただき、そのなかから厳選した六百余点の写真を収録することができた。

といっても、全時代をまんべんなくカバーした形でうまく写真を集めたといきれないのも当然である。たとえば、明治京都の最大のイベントである第四回内国勸業博覧会については、会場の写真はわずかに一点しか収められていない。『第四回内国勸業博覧会報告書』(一八九六年)、『平安遷都紀念祭紀事』(同年、京都市参事会)、『平安遷都千百年紀念祭協賛誌』(同年、同協賛会)といった公式報告書をはじめ、いくつかの刊行物があるが、写真を収録するということはまだ一般的ではなかった。『大典記念京都博覧会写真帳』(一九一六年、大典記念京都博覧会)、『大典記念京都大博覧会写真帳』(一九一九年、

京都市)といった記念の写真集が刊行される習慣は、もうすこし後のことである。

もともと一九〇三年に大阪天王寺で挙行された第五回内国勸業博覧会については、『第五回内国勸業博覧会写真帳』がすでに刊行されている(一九〇三年、大阪玉鳴館刊)。

それでも明治二十年代以降には、すでに少数ではあるが写真機の普及がみられ、貴重なフィルムが残されている。さきの内国勸業博覧会について唯一収録できた一点のふくまれている岩井コレクション、あるいは写真集冒頭を飾る京都府庁を撮った黒川コレクションと呼ばれる一群のものは、明治―大正期の京都のスナップとして残されたものとも貴重なものとして、現在は府立総合資料館に寄託されている。

これらの写真家たちが登場する以前の幕末から明治初期の写真は当然のことながら、その収集はさらに困難である。倉密局、梅津製紙場など、明治初年の府営勸業施設は、幸いにも『京都府誌』(一九

一五年、京都府、復刻一九七四年、名著出版)に掲載された写真を活用できた。同書は明治末年までの主に公共施設にかかる多くのグラビアをふくんでいる点で貴重である。東西の高瀬川、島津製作所・鐘紡・馬町煙草などの工場、伏見商業会議所、窮民授産所、京都座、円山公園、錦魚市場、宇治火薬製造所、そして諸学校と、写真集に載せたかなりのものは『府誌』から転載したものである。

しかしながら『京都府誌』が官庁の手にかかる府の沿革と現況の報告書という性格の書物であるせいか、ここにある写真は、いかにも生活臭を感じさせないものが多い。諸学校の写真など、人影ひとつない各校の正門を正面から撮った写真が延々と続くといった感じのものばかりである。

幕末から明治の時期の日本の生活をヴィヴィッドにとられた写真は、むしろ欧米人の手にかかるものが多い。そのひとつ、大森貝塚の発見者として著名なモースのコレクションは『百年前の日本』(一九八三年、小学館)と題して広く一般の目にふれるようになった。幕末維新期における極東の諸国、中国や日本に対するヨーロッパの関心は、今日私たちが考える以上に大きい。今日まで引き続き刊行されているグラフ雑誌『イラストレイテッド・ロンドン・ニュース』のなかから、一八五三年から一九〇

二年に至る日本通信を集めたものが『描かれた幕末明治』と題して刊行されている(一九七三年、雄松堂書店)。ここには写真よりもむしろスケッチが多いが、このような大冊の編さん物となるほど日本関係の記事は頻出してはいる。

ロンドン大学のSOAS(東洋アフリカ学部)には、日本について書かれた洋書のコレクションのうち、もともと大きなもののひとつを蔵している。日本の開港、一八六七年の万国博への日本の出品、そして明治新政府の登場と続く、一八六〇―一七〇年代に、すでにかんがりの東洋、あるいは日本にかかわる書や紀行記が刊行されているのが知られる。そのSOASの日本部の書架のなかでもAndrew Steinmetz: *Japan and her People*, 1860, Londonなどは、も

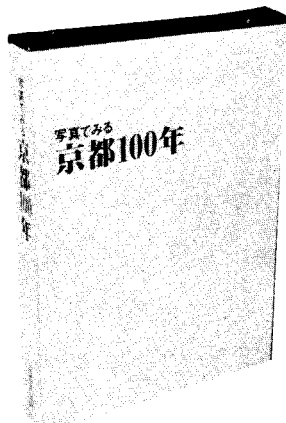
とも古いもののひとつであるが、その豊富なさし絵は日本人が極めて中国風に描かれていたりして、まだかなり不正確である。さし絵が写真にかわり、豊富に体験にも

とづいた日本関係書が登場するのは一八七〇年代以降という印象をうけた。

日本関係洋書が多く刊行される時期というのやはり山があり谷がある。英語圏についていえば、一八七〇年代から八〇年代初期の第一の山にひきつづき、一九〇〇年代初頭の日英同盟、日露戦争の時期が続き、さらに日本をめぐる米英との緊張が増す一九三〇年代と続く。このうち、私たちにとって貴重な写真の掲載されているのは、第一、第二の時期ということになる。ただ量的には、第二の時期に掲載写真が圧倒的に多い。

G. Waldo Browne: *Japan—The place and the People*, 1904, Londonなど、明治期の日本の写真が豊富に載っている本のひとつだが、私たちの感覚での写真の珍らしさについていえば第一期のそれと遜色はない。

ただ古書価は第一期と第二期とでは三―五倍くらいひらきがあるように感ぜられた。ロンドンの



「写真でみる京都100年」
京都新聞社発行
定価 4,800円
A4判ケース付総304頁
写真632点巻末に
近代京都略年譜併載

古本市場は、日本関係洋書は安価な掘り出し物は大へん見つけにくくなったようだ。一九〇〇年代以降の、三〇〇ページほどの書物で幾点かの写真グラビアのついているものが15〜30ポンドというのが私の滞英中の一九八二年における標準的な相場であったように思われた。

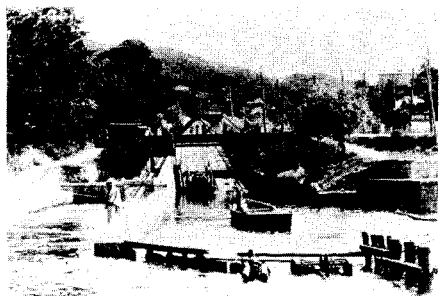
なお京都大学人文科学研究所の吉田光邦氏を班長とする研究班によって一九世紀日本関係の洋書の解題が同所紀要『人文学報』に連載されており参考になる（同誌第48号「一九八〇年、より第57号」一九八四年まで六回連載中）。

明治末年以降になると、収録写真の収集はずっと楽になった。アマチュアカメラマンが輩出する昭和期よりはまだまだかなり以前の段階ではあるが、明治末、大正期になると刊行される書物にグラビアを載せることがかなり一般化したことに依るものが多い。さきの『京都府誌』もそうだが、官公庁の報告書などに顕著である。京都市の近代都市景観の原型を形成した「三大事業」については『京都市三大事業誌』全二冊が刊行された（一九二一〜一九四年、京都市）。第二誌

琵琶湖疏水編、道路拡築編の二篇からなるが、それぞれに「図譜」各一冊が加えられ、工事前後の変化、工事中の模様など多数の写真が収められている。写真集では東大路馬町、烏丸通東本願寺前、千本今

出川、丸太町橋の四カ所について道路拡張前の狭い路地と、市電の走る拡張後の景況を対比したものを転載することができた。

三大事業に先き立ち、これとならぶ明治京都の最大土木事業である琵琶湖疏水工事については、工事の模様をスケッチした河田小龍の『琵琶湖疏水図誌』（一九七八年、東洋文化社）があるが、写真については疏水完成五十周年を記念して京都市電氣局が刊行した『琵琶湖疏水及水力電氣事業』（一九四〇年）があり、『田辺朝郎博士六十年史』（一九二四年）、『京都市電氣事業沿革史』（一九三三年、京都市電氣局）をあわせれば、京都市の水利・市電事業の概要をつかむことができる。



大正期のインクライン（本書より）
電氣事業と路面電車について、

京都市と営業区域を分担していた民間会社の社史『京都電灯株式会社五十年史』（一九三九年）も欠かれない。こうした社史類にはそれぞれの秘蔵する記録写真が収録されて貴重である。『島津製作所史』（一九六七年）が創業の地である木屋町二条のチンチン電車の景況を、また『京都嵯峨材木史』（一九七二年）が明治末の嵯峨、嵐山の景況を収めるなど、たんに会社内だけではない興味深いものが多い。

一九七〇年前後には、市内の小学校が創立百周年を迎えたところが少なくなく、明治初年に発足した六十余校のほとんどで『百年史』が編さんされた。地域に密着した人々の手によって編まれたものにふさわしい特色を出している。ただし写真集は収集が難しかったせい、大正以前の古いものは少ないが、いかにも生活臭を感じさせる地域性豊かなものが少なくない。

昭和期の京都の都市景観の変化にもかなりの影響を及ぼした室戸台風（一九三四年）とその翌年の加茂川水害については、京都市の手によって『京都市風害誌』（一九三四年）『風害写真』（一九三五年）『京都市水害誌』（一九三六年）が編さんされた。一九五三年の南山城水害についてまとめたものはないが、綴喜・相楽郡内の各町はこのところあいついで町村史の編さんに着手しているので、各町が町制施行三十年を迎えるこの一両

年には、発掘された写真をふくむ町村史が出揃いそうだ。

官公庁出版物からの今回の写真集に転載したものの圧巻は、大正と昭和の天皇の即位大典の記録である。『大正大札京都府記事』（一九一六〜一七年、庶務部、警備部、計三冊）、『昭和京都府記録』（一九二九年、全二冊）、『昭和京都府記録』（一九二九年、全二冊）、『内務省警保局』は、それぞれ千頁をこえる大冊である。近代立憲制国家における皇室儀例の先例を記録する意気込みを感じさせる詳細なものとなっている。これらは部内資料として『秘』扱いで頒布されたものだが、かなりの部数が印刷されたようで、古書目録でしばしば見うける。即位礼の状況、大嘗宮の内部など、一般には撮影は困難であるから、これらの公式記録に掲載された豊富な写真グラビアに依存せざるを得ない。

今度の写真集には官公庁編さん物からの転載が少なくない。即位大典の写真のように民間では撮影や入手の難しいものがふくまれているという理由のほか、古い官公庁出版物の場合、複製作成による二次的使用の権利関係が比較的自

由であることにもよる。龍溪書舎の『日本人の海外活動に関する調査』復刻をめぐって生じた著作権裁判において、国の著作権を認容した東京地裁判決も、官公庁出版物を再編集したり部分的使用する

限りでは不問に付している。

しかし文章で書かれた著作物とちがって、美術品や絵画、写真には、より複雑な権利関係が慣行として存在している局面がある。写真の撮影者（およびその相続人）、所蔵者、収集者、編集者、さらにその二次的使用者の作成した刊行物といった重層的関係者間の権利関係は複雑である。著作権法上の次元の問題と、道義的信頼関係にのみかかわることなどもありえよう。奈良の大和文華館が、所蔵美術品の写真転載料を徴収しないことと決めたことはひとつの英断であり、問題提起といえるし、本誌第二五号での田中泰彦氏（写真集『京の町並』一九七二年、の編者）の問題提起もある。

官公庁出版物もそうだが、とりわけ個人の写真の使用では、撮影者や収集家の労苦に配慮した処置がとられなければならないことは勿論であり、かつそれらが広く公開されるため信頼関係の上に立つ配慮が要求される。

なお京都府の地域史にかかわる総合文献目録として、京都府立総合資料館から新しい『京都府資料目録』（一九八四年刊）が刊行された。二万タイトルという収載量もさることながら、件名と書名の双方から探索できる索引が便利である。

（同志社大学人文科学研究所 助教 助教授）

私の美術書誌(二)

中山 善 次

二、審美書院

明治三十六年審美書院の名が初めて出たのはその出版物によってわかる。国華社との間の十五年間に、右の二社以外に美術書の出版社はあった。画報社と東陽堂も古い歴史を持つ店、前者は「美術画報」を明治廿七年から三十二年間続けて出した。後者は「絵画叢誌」を明治廿年から大正六年に三五六号を続けた。美術界の様子を世に送った功績は大きい。殊に「絵画叢誌」は石版原色図版を多く取り入れ、日本の古画、中国画など諸家の論説と相俟って、この当時の美術史界を知る手がかりとしての資料的価値は高い。美術書の出版では、東陽堂に、圓山應舉の原図で寺崎広業が模写した、難福図巻三巻の複製があるが、他に取立てて記すべきものはない。

創立者田島志一

審美書院の出版物をあげるに先立って、書院を主宰した人物、田島志一氏のことを書いておかねばならぬ。昔聞いたことがあったが、書院主田島氏の出身地は、山口県といふ。生家はお寺さんだった。書院が機関誌「日本之美術」を明

治四十二年五月創刊し、月刊誌として続いて昭和に及んでいる。その誌に審美書院の現況を記している。田島氏が寄せた記事を参考に以下筆を進める。

氏はその第一号に「古画綾々記」の題下で以下六回に渉り執筆している。それらの文章から察知すると、日本の古美術方面に可成りの鑑識眼を持っていたらしい。絵の善悪、筆者の批評、更に、図録を造るについて、間違つたものを載せないなど自信の程をのぞかせている。明治四十年、四十一年は、材料博搜のため、諸国の諸家を訪れている。旅行中は、書院の弓山写真技師を帯同し、山口県、萩、津和野、益田、須佐、を順廻した。続いて神戸、大阪、岸和田を歴訪し、日本・中国の古書画を撮影した。その数二千枚を越したと言う。自社の出版に利用するに事かかぬようだった。

彼はあとに述懐したところに依ると、書院に在った頃、浅野家の中国画などの優れた作品が撮影の許可が得られなかったことを一番の心残りと言っている。浅野家の宝物図鑑はあとに、大正六年漸く

所期の目的を達している。

出版活動

この同じ年、特筆すべきは、書院の絵画部勤務の伊藤素軒を米国ボストンに派遣し、平治物語絵巻の模写に当らしめている。審美書院の仕事と言うので、ボストン美術館が特別に、この回に限りとして数書きし模写の許可を与へている。国宝級の絵巻に数書きし模写は絶後だ。伊藤素軒は京都の人。今尾景年の門下で仲々の模写技術を持っていたらしい。

在米日より、日本之美術誌上に見えるが、模写について、「全長廿五尺余、朝九時から午后四時半まで模写に随って、平均一尺に五日を要し、全部は百三十余日」かかるかと伝へてきている。一つの絵巻の模写に、一企業が五ヶ月余の海外生活の費用負担は並大低でなかったかと想像される。帯米中三回通信をよこしている。仕事が成功した最終の通信に、「平治物語模写四月上旬より初めて九月六日成功めでたく絵巻を洗った。原本と模写と並べて、参観者から賞讃された」とその喜びを現はしている。

是より先、書院に関係ある画家、川面義雄、植松素鳳両氏をして、酒井家の伴大納言絵詞三巻を模写するに一年一ヶ月を要し完了せしめた。田島氏は著名な絵巻の複製を企劃し先づ七点を取り上げたが、結局水墨系の鳥獣戯画三巻、雪舟

山水大長巻と小長巻の三点を複製したにとどまり、他の濃彩絵巻類は遂に書院から出なかった。白黒印刷では気が進まなかったのだろう。さりとて木版色摺りとなると莫大の費用に加へ、且つ日数もかかる。折角の模写は二点が完成し乍ら出版を見送った原因と思う。

田島主幹の渡欧

田島氏が美術書を出版し始めて彼の名を見せたのは、明治三十二年日本仏教真美協会の名で出た、真美大観が第一刊だった。彼は京都に在って出版したものだ。審美書院を創立する五年前である。明治三十六年東京に出版の場を求めここに初めて審美書院の名を冠した。最初の出版は元信画集だった。

田島氏が精力的に第一刊を出したあと、明治四十三年迄の十数点は日本の美術書出版史上特筆さるべきもので氏の情熱がこの時期に凝集されている。明治三十六年から数えて八年という短い期間に驚異の大躍進を遂げた。そこに編集にたづさわった大村西崖氏、相見繁一氏など強力な人材があったことは見逃がせぬ。「最初は渺たる余が一個の経営に過ぎざりしも」との書き出しで、書院の資本のことに及んでいる。「資本十一万円を廿五万円に増加」一挙倍を越す増資である。当時の日本の代表的人物の株主十数名をあげている。

明治四十二年前後に集中して見

事な大冊が続々現れた理由の一つは、四十三年五月英国に於て日英博覧会が開かれるにつき、そこに送り込む図書を、日夜社をあげて製品に取り組んだことがうかがわれる。書院の増資も時宜を得たと云うべきであろう。

渡欧は主幹田島志一、編集員相見繁一、社員某一人の三名だった。四月廿六日敦賀から浦塩シベリア鉄道經由で渡英の途に上った。現地では余期以上の大きな反響を呼び、当初の出荷で足らず、更に追加出荷の状況を記している。博覧会後欧州はベルギー・独逸その他の都市を巡廻した。田島氏のもっとも得意な時代だったと云へる。旺んな頃の書院の構成は下記のようにだった。日本画部、木版彫刻及摺刷部、写真部、製版部、活版部、製本部、経師部の総てを完備し規模の大きさがうかがへる。

天馬空を行く大発展をとげた田島氏ではあったが、四十四年突然自分が主宰した社を去った。海外から帰って一年後のことである。書院を去った事情は不明である。書院を出てから別に会社を作り、そのかたわら芸海社を創立し仕事

の一切を相見繁一氏にまかせた。大正元年十一月群芳清玩第一冊、芸海社主幹田島志一、主筆編集相見香雨氏、この書の序に自ら記して曰く、「明治三十一年始めて真美協会を起して、真美大観を発行し次で、審美書院を創立して以て

美術書刊行に従事す、余昨秋故ありて審美書院を去り専ら工業方面に執筆しつゝ、あり——本務の傍ら芸海社を起しその最初の事業として茲に本書を刊行す」とある。大村西崖著近世風俗画史の巻後に息大村文夫氏が記する所に依ると、「田島志一氏は大正九年に他界した」と認めている。

大正期以後の審美書院

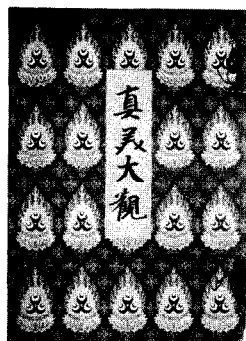
審美書院の仕事は、田島氏が去つたあと、それまでに出版したものの重版、二版三版と重ねているが、新規の事業としては、大きな躍進はなく、明治四十年前後の如き花々しさは見られなかった。昭和十八年は非常事態による企業整備などで、美術書造りに前人未踏の足跡を残した審美書院の名は消え去った。

田島氏の造つたものは、どの本も皆心がかもつている。強力な支持者があつたに違いないが、そこに彼の絶大な信用があつた。收藏家の秘庫を開かせたことも、又彼の人徳の現はれと見たい。審美書院とこれを創立主宰した田島志一の名は永く出版史上に又人々の記憶にのこるであらう。

出版書目

真美大観 二十冊 明治卅二年 日本仏教真美協会の名で、田島志一が初めて出版した大型図録。明治四十一年に完結した。図版の解説は和英両文で、欧米人が東洋の古美術を勉強する絶好の役目を果たした。特別製、上製、並製本と三

種ある。二十冊完成後、更に五冊増補発行の広告を出したが、それは出なかった。



元信画集 三冊

同 卅六年 全三巻、四十年五月に完成、初めの二冊は、関西で印刷した。第三巻は東京印刷。この図録第一巻明治卅六年六月発行、審美書院の名の出た極初。上製、並製二種ある。

光琳派画集 五冊 同 卅六年 三十九年九月完成した。田島志一が本格的に取り組んだのはこの図録から。初め四冊の企劃を増刊して五冊とした。一、二巻光琳、三巻乾山、始興、四巻抱一、五巻抱一、其。特別上製四九〇ミリ(真美大観と同型、英文版(解説英文、種類の多い本。過去に手にとった記録を見ると、大低四三〇ミリの型の上製本が多い。

若冲名画集 一冊 同 卅七年 関西で印刷した。田島個人刊本。**南宗名画苑** 廿五冊 同 卅七年 四十二年九月全冊完成、日本にある、支那宋元明清画と、南画系日本画人の作品 解説付、大正五年

までに三版を重ねた。

帝室博物館鑑賞録 同 卅九年

支那古銅器目録、別冊解説付

浮世絵派画集 五冊 同 卅九年

四十年十一月完成、図版の殆んどが木版色摺、七百部を作り、昭和四年迄に三版を重ねた。この図録の特徴は、原本が絹のものは、複製も絹本摺になつてゐる。このような試みは出版史上珍らしい。各巻の最終頁に撮影者、臨写画師、木版彫刻者、摺刷者の名を記し、複製者の責任を明かにしている。これに要した人員九十三名、最高の製品をめざす書院のあり方を示している。



折込木版図彦根屏風(部分)



日本名画百選 二冊 同 卅九年

東京美術学校が編集した、上代から江戸時代末迄の絵画集、特製と並製本の二種、日本美術の流れを知るに便利、明治四十二年「国民画鑑」の名で普及版と出した。

圓山派画集 二冊 同 四十年 上巻応挙、下巻応挙、芦雪、源琦素絢、徹山。最上製、上製、並製の三種ある。

雪舟山水大長巻 同 四十年 文明十八年雪舟六十七歳筆と巻尾に筆者の自記ある有名な毛利家本、天地一尺二寸四分長五十尺余原寸複製。再印本も出ている。

支那名画集 二冊 同 四十年 日本にある。支那絵画のたしかなもの、古来著名なもののみを撰びて作つた。

倭漢朗詠集 同 四十一年 この原本は御物本伝行成筆の著名な平安時代遺品、習字の便を計り拡大複製になつてゐる。原本より少し大きな文字。皇室のお手習いは皆この朗詠集を使用された。よく売れた本で四版を重ねた。初めの姿は十冊に分冊して発行した、あと大和綴本一冊になつた。

東洋美術大観 同 四十一年 田島志一が解説者大村西崖と組んで、正に書院の看板出版物、ライフワークだ。四十一年七月から始めて、大正七年七月、企劃した十五冊を完成した。十五冊の内容は、日本画七冊、支那画五冊、彫刻三冊。日本画と支那画の部は、原画が絹に描かれてゐるのは、複製

も絹を用いて摺られてゐる。日本画部七冊は、四十二年百組増刷し、更に大正十年日本画、支那画の増刷を行つた。この時日本絵画史一冊を附けて十六帙とした。最上製、上製、並製三種ある。

鳥獸戲画巻 三巻 同 四十一年 紅葉の名所で著名な梅尾高山寺が所蔵する、鳥羽僧正筆と伝へる、平安時代後期の作品、原寸複製。

東瀛珠光 六冊 同 四十一年 四十二年十二月全冊完成。宮内省の特別許可を得て、正倉院御物を図録にした最初の本。可成りの反響を呼んだもので、三版を重ねた、上製、並製二種ある。

禅月大師羅漢帖 同 四十二年 唐末五代禅月絵十六羅漢図の始め。

雪舟画集 同 同 四十一年 現存する、雪舟遺作で確かなものを収録、四十二年に続集を出し、二冊とする。上製、並製の二種、

日本南画集 一冊 同 四十二年 柳里恭、池大雅、蕪村、華山など三十一家の作品七十九図、東洋美術大観第七巻を単行発行したもの、上製、並製二種

国民画鑑 一冊 同 四十二年 先きに発行した、日本名画百選二冊と内容同じ、その普及版。

文人画三大家集 一冊 同 四十二年 蕪村、華山、竹田の作品五十四図上製並製二種発行した。

南画十大家集 二冊 同 四十二年 上下二冊四十二年に完成。池大雅から文晁、竹田、梅逸など著名十

- 家の作品集。本冊は、先きに出た日本南画集、文人画三大家画集と内容重複した絵はない。上製、並製二種出た。
- 雪舟山水小長巻 同 四十二年
先きに複製した、毛利本の大長巻に対する、原本の小長巻、今国立博物館所蔵、原寸複製。
- 日英博覧会出陳古美術品図録 同 四十三年
同じく、同出陳新美術品図録
- 唐宋元名画集二冊 同 四十三年
東洋美術大観第八巻、第九巻と内容同じ、三種出た。
- 美術聚英 廿五冊 同 四十三年
大正三年全廿五冊完成した。絵画を主とし、工芸品も収録している。
- 蘭古帖 一冊 同 四十三年
中国宋時代の梁楷六祖図、出山釈迦図や伴大納言絵詞などの所蔵で知られる酒井家の蔵品を初めて図録にしたもの。
- 特別保護建造物及国宝帖 三冊
内務省編纂で、国宝物件を図録にした初、絵画、建築、彫刻、工芸五二九枚の図版。伊東忠太、関野貞、岡倉覚三、中川忠順、平子尚などの解説別冊三百頁。明治四十三年刊、大正四年再版した。
- 正倉院志 同 四十二年
大村西崖著、「東瀛珠光」を見る為の手引書、日本版の外、英文版も発行。
- 日本絵画小史 同 四十三年
大村西崖著、東洋美術大観日本画部を並び見るべく作られた概説書
- 支那絵画小史 同 四十三年
大村西崖著、右と同じ意図で作られた中国絵画の概説書。
- ギリシャローマ諸神伝 四冊
大村西崖著、明治四十三年刊
歌麿女織手業草錦絵四十二年木版着色十二枚続き、複製
- 支那古銅器集 同 四十三年
帝室御物、住友家などの個人所蔵品銘文写真付五十二図、和英両文解説。
- 雪舟山水帖 同 四十三年
細川家所蔵品、全廿八図、上製絹本色摺本と並製紙本製本と二種刊
- 支那墨宝集 二冊 同 四十三年
三國、六朝から随唐元明に至る。図版七〇、解説付、昭和四年再版が出た。一冊本もある。
- 廣業画譜 同 四十三年
寺崎広業画、大村西崖執筆広業画伯小伝、七十四図収む。
- 一掃百態 同 四十三年
渡辺華山画、鎌倉時代から江戸時代化政間の風俗姿体を描いたもの、上製本着色摺と並製無彩色の二種、大正七年彩色本再刊。
- 大師会展観図録第一 四十四年
大師会は、益田孝が主宰して、當時のお茶人仲間の雅会。主室に弘法大師の書を飾ったのが始まり。
展示品四十三図収録
- 四条派画集 一冊 四十四年
蕪村、応挙、呉春、景文等の作品四十七図を収録する。特製並製の二種。
- 筆耕園 一冊 四十五年
- 黒田家が所蔵した、宋元明時代四十九家の絵、六〇の画帖。全部色摺の上製本と、無色並製本の二種。
- 星岳画集 一冊 大正 元年
川越喜多院が所蔵する、職人盡絵三十六歌仙、絵鷹十二鷹、六十七図版。
- 宗達画集 一冊 同 二年
俵屋宗達の絵をまとめた極初の本図五〇枚、上製、並製二種。
- 装剣金工図譜 二冊 同 二年
古河家のコレクション。六九八図版。附冊本邦装剣金工略誌三八五頁一冊和装本。
- 明清名画集 三冊 同 二年
東洋美術大観第十、十一、十二巻と内容同じ。
- 東京美術学校蔵品図録 同 三年
現在の東京美術大学の収蔵品図録、天平絵因果経初め優秀品多し。
- 支那書画片影 一冊 同 三年
小万柳堂劇蹟 一冊 同 三年
右は廉泉蔵中国絵画集。
- 西洞清賞 一冊 同 三年
八田西洞集める中国絵画集。
- 遠州会展観図録 一冊 同 三年
小堀政一遺品展図録。
- 黄慎画帖 一冊 同 三年
中国清時代画家の作品。
- 光悦派三名家集 一冊 同 四年
光悦と光琳、乾山作品集、上製、並製二種。
- 芸苑心賞 十二冊 同 四年
大正七年九月完成。東洋の絵画、彫刻、工芸品図録、日本文と英文解説つき。
- 江戸物語 一冊 同 五年
和田維四郎著、和装袋綴、色刷木版多数入り、江戸時代の版画、版本、刷物、など書誌学的な米歴を記した趣味的刊行物、著者自刊本。
- 嵯峨本考 一冊 同 五年
和田維四郎著、光悦文様入奉書刷和装袋綴本、本文五十四頁、図版四〇。光悦本とも云う。豪華絢爛な装釘で江戸初期に出た。伊勢物語、徒然草、謡曲本等諸本の書史的解説書。著者はこのあと、訪書余録六冊を著した書誌学の先駆者。
- 曹繪畫譜 一冊 同 六年
曹雲西画、董其昌書の画帖。
- 董其昌詩画帖 一冊 同 八年
蕪村書簡集 一巻 同 八年
大正十五年完成、高橋義雄編集、名物茶器茶碗の図録、超大な巨冊別に索引一冊を附す。
- 蕪村画集 一冊 同 十一年
先の書簡集と共に武藤山治コレクション。蕪村図録の極初の本。
- 飛鴻片影 一冊 同 十二年
近藤廉平コレクション中国画集。
- 五代董源筆溪山図巻 同 十二年
五代董源筆溪山図巻 同 十二年
宋女冠素然筆明妃出塞圖巻
十二年原寸複製一巻。
- 明董其昌山水巻 同 十二年
明文徵明寒原宿莽圖巻 十二年
元王蒙秋林書屋圖巻 十二年
右は何れも原寸複製巻子本。
- 日本近代名画三十選 十四年
黒田清輝デッサン傑作集
- 十四、十五年、全十集。
大師会記念帖 一冊 同 十五年
探元画集 一冊 同 十五年
狩野派、法橋木村守広画集
渡辺華山遺墨帖 昭和三年
寒山詩集 一冊 同 三年
豊干拾得詩附、宋刊本複製。
頼山陽先生真蹟百選 同 六年
木崎好尚編、百点(百廿六枚)。
富士百影作品集 同 七年
岡田紅陽編、全十冊。
異本北野天神縁起 同 七年
原本武藤山治蔵、色摺複製、十四回に分け同八年完成、秋山光夫解説。
- 田野村竹田先生百選帖 同 九年
木崎好尚編二帖解説一冊。
目擊佳趣 一帖 同 十年
田能村竹田画と文十六面、相見香雨解説。
- 蕭雲從秋山行旅圖巻 同 十一年
原本国立博物館蔵、原寸複製一巻
秋山光夫解説一冊添。
- 沈南蘋動植帖 一冊 十一年
陶庵公影譜 安藤徳器編 十二年
支那トルキスタン西域画集成。
結城素明模写編集及解説、十五輯に分けて発行した、昭和十五年、十六年完成。
- 鑑賞日本名画選 同 十六年
結城素明編集解説、三分冊百枚。
名画新拾十集十七年、十九年完成。溝口楨次郎、秋山光夫編、主として江戸時代絵画、十集に分冊発行。
文部省美術展覧会図録

明治四十年から大正七年まで続く。
帝國美術院美術展覧会図録

大正八年から昭和九年迄続いた。
審美書院では、他に肉筆ものの複製が多くその大半は古名画である。或るものは掛軸装とし、殆んど欧米人に売られた。明治四十三年五月の英国に於ける、日英博覧会には一枚もの色刷複製が主たる商品となった。

(文華堂 店主)

聞きがき

「昭和古本販売史」(二)

円本の波(前篇)

古本という再生の流通商品は、その第一次供給源である新刊出版の影響を受けることは言うまでもない。いきおいこれから語ってゆく古本の販売史の中に、出版史が多く関与してくることになる。

昭和の古本販売はまず「円本ブーム」で開幕した。それは出版の世界での狂乱ではあったが、やがて古本業界もこのブームを迎えることになる。今回は古本の「円本ブーム」の前篇として、震源である出版界の「円本ブーム」の盛衰を述べてみよう。

大正九年に始った金融恐慌は、関東大震災で追い打ちをかけられ慢性的不況のまま昭和を迎えた。震災の書物飢饉のおかげでいくぶ

前号「私の美術書誌(一)」で次の個所に誤りがありました。おわび致しますとともに以下のように訂正します。

◎3頁第3段19・20行目

◎光悦派画集上野竹斎蔵品

同 四十二年

◎3頁第3段7行目

◎清未陳什欄

◎清未陳介祺

ん安泰であった出版界も大正末期にはどの出版社も返品が激増して経営難に陥ってきた。

こうした中で、山本実彦の主宰する改造社が起死回生の大作として一冊一円で「現代日本文学全集」(全三七巻―途中増巻され全六二巻となる)を刊行したのである。その販売方法として同社は、一円の予約金を取り、それを最終

巻の代金に充て、その間苦しい台所の運転資金としたのである。丁度、タクシーが東京市内均一円の時代であり、これを円タクと呼んだように、この一円の本は円本と呼ばれた。

山本の賭は見事に当たった。単行本で買えば数十円になる分量の数

編の小説を一冊におさめ、タクシ

ーと同じ料金で売る(但し上製本は一冊一円四十銭)というのであるから、それは爆発的な人気を呼び、三十八万人という驚異的な予約を獲得して昭和元年六月第一回の配本が始まったのである。

この人気を他社が傍観するはずがなかった。まず新潮社が猛然と対抗意識を燃やして「世界文学全集」第一期全三八巻を、やはり一円の予約金を取って昭和二年に出版。これも相当な人気を呼び改造社を凌ぐ五十八万部の予約が寄せられた。あとはもう円本ラッシュである。そして一冊一円前後のものでも、当時に出版された全集などセツトものは広く「円本」と呼ばれた。

これら円本の中で現在古本市場でよく見かけるものを前二者の他にあげると、(●印は一円以上の定価のもの、*印は並製の円本の他に上製本があるもの)

*世界大思想全集春秋社全二二六
*大思想全集 同 全二二
*大思想全集 同 全二二

修養全集 同 全二二
落語全集 同 全三

*帝国文庫(昭和版)博文館全三〇
*世界美術全集 平凡社全三六
*現代大衆文学全集 同 全六〇
*日本戯曲全集 春陽堂全六八

*明治大正文学大全集 同 全五〇
*経済学全集 改造社全五〇
*日本地理大系 同 全一七

店主の閑話

先日扱った

チョット珍しい本

誌名「シナリオ新人」 第一号
編集兼発行人 塩中景晶
発行所 二四会(同人32名)

シナリオ新人編集室
刊記 昭和三十三年二月一日発行
領価 一〇〇円(現品が手元になるので最終頁数不明)

目次 一プロット 真珠泥棒
(馬場保行著) 他三編
一シナリオ 会長夫人万才(筒

井康隆著) 他三編
カット 筒井康隆・竹村弘
P1 はじめのことば(塩中景晶)
Y・TSUTSUIの毛長
鶏のカット
以下21頁迄で完
内容 あまり仲の良くない隣り



(二頁目に入っている筒井康隆のカット)

同志の教育ママが、後任のPTA会長をめぐる家庭争議等いろ／＼トラブルがおこると云った喜劇タッチの戯曲である。

他に、筒井康隆のカットが何個所がある。

広告(裏表紙) 日活「孤独の人」
大映「生命の神秘」デイズニー
表3には「まどか・グループ(藤間繁・佐野周二・佐田啓二ら)

映画関係者の広告があり、多少のバックアップがあった様に思われる。他に、京・大阪等の料理店等の広告があった。

※筒井康隆 昭和九年九月二四日大阪生 同志社大学美学専攻 卒業後 C・Mデザインのスタジオ設立 35年SFE同人誌「NULL」主宰、掲載の「お助け」を乱歩に絶賛され本格作家活動に入る。

したがって「会長夫人万才」は映画好きであった筒井氏22才の作品である。

この本は何日どこで仕入れたものか思い出せない。先日、たまたま整理をしていた時に見つけたものである。

本好きの方は、いつかどこかで珍しい本と出会うことを願って古本屋めぐりをなさっていることと思いますが、運・根・コマメに古本屋、即売会等に珍本あきりをなさって下さい。キット面白いものが見つかることと思います。

(京極書房 藤原 学)

現代長篇小説全集新潮社全二四
 ＊芦花全集 同 全二〇
 ●有島武郎全集 同 全一〇
 ●明治文化全集 日評 全二四
 ●日本地理風俗大系 新光社全一九
 ●世界地理風俗大系 同 全三四
 ●漱石全集 岩波 全二〇
 ●芥川龍之介全集 同 全一八
 近代劇大系 第一書房全四三
 羽仁もと子著作集婦人之友全二二
 国訳一切経 大東出版全一五五

さらにエスカレートして「朝日常識講座」全二〇は半額の五〇銭という大廉価までとびだした。子供用としてはアルス社が「日本児童文庫」を二冊五〇銭で、興文社が「小学生全集」を一冊三五銭で発売してしのぎを削った。

これら円本は、昭和元年より五年の短期間に約三百数十種にのぼった。これだけ一時に出版されてはもはや読者は食傷する。やがて昭和五年の大恐慌と共にさすがのブームも衰退し、出版社には返本が山をなしていった。そしてこれらの本はゾッキ本屋にたたかれて身売りされ、また読者の蔵書も整理され共に古本屋に怒涛の如く押し寄せてきたのである。

昭和六年発行の「古本売買の実際知識」（古典社）の「圓本」の部には

圓本全集類は、決して予約・講読せず古本として求めなければならぬ。そうすれば欲しいと思う

分だけを、予約定価の半分以上で買うことができるからだ。
 と円本を古本で買うことを勧めている。さらにつづけて

各店の圓本目録を集めて、その中から、学術的価値あるものを抜き書きして、一つの文庫をつくるも面白い。かりに五十冊で、全学術界に互る参考書が網羅されるとすると、一冊五〇銭としても二十五圓で、大学教授の鼻面をスラリとならべることができよう。

理論的なもの、歴史的研究になるものは円本類でも、学術的価値のあるものがあるから、そして一冊二十銭で買えるものもあるから、円本蒐集を軽視してはならない。

と短期間に乱造された円本の中にも内容の秀れたものがあることを指摘している。こうしたものは円本とはいえず現在古書価の上がつているものもある。

次回には円本のブームを古書界はどのように受けとめたか、そして円本の行末は、その市場価格はどうのように変遷して現在に至っているかを述べることにする。

尚今回の円本の出版史については鈴木敏夫著「出版—好不況下興亡の一世紀」（出版ニュース社）を参考にしたい。

（キクオ書店 前田 司）

古書研だより

第二回春の古本まつり

「京都古書大即売会（五月三日）」と

古書目録の発行

新録まばゆい五月の連休（三、六日）に京都岡崎公園の勸業館で京都古書研究会主催京都古書大即売会が開催される。四百坪の大会場に会員の店十七店が軒を連ねる。どの店も秘蔵の品、超特価の掘り出しものなど秋の古本まつりに負けぬ質と量を用意している。

また特別コーナーとして、大好評の「児童書コーナー」、「京都コーナー」が設けられると共に、同時に隣接会場で開催の催しに合せて「花と緑のコーナー」を設置、園芸や庭園の古本を販売する。

一方、昭和歴史の本年にちなんだ「特別展示昭和古本史」は我が

国初の試みであるだけに目下会員一同準備に大わらわである。

このほか秋の古本まつりと同様「入札セール」も催される。百数十点の古書（主として全集やセツトもの）をお好きな価格で手に入れることが出来るといふ当会ならではの名物セールである。

（特選総合古書在庫目録）

第三号発行

古書大即売会に併せ京都古書研究会々員の古書在庫目録を発行。B5判、写真版五二頁、本文一〇二頁に和洋古書約四千点余を掲載。一冊五百円（送料二五〇円）で会員店にて販売している。本誌の定期購読者には、四月二十五日までにお申し込みいただいた方に限り無料でお送りしている。残部僅少故お早くお申し込み下さい。

申込先は京都府中京区東洞院通六角上ル京都古書組合内「古書研究会・目録係」

その他の即売会

（京都近鉄百貨店）

●第65回古書籍即売会

四月二六日（金）～五月一日（水）

七階催場 目録発行

●第66回古書籍即売会

七月末頃の予定

お問い合わせ先は京都古書組合（電話一〇七一三二一～一〇七三〇七）

（京都書院）

●美術古書展示即売会

六月二十一日（金）～二十六日（水）

河原町店四階（京都市中京区河原町通四条上 電話一〇六二二）

日頃本店では販売していない和洋の美術書、デザイン関係書、展覧会目録や、美術雑誌のバックナンバーなど約八千冊を出品。

編集後記

◎巻頭言を初めて女性の方に飾っていたいただいた。寿岳先生曰く「今まで女性が出なかつたのはおかしいわね」。これからはどんどん女性の方にも登場していただくよう企画を練っております。

◎春の古本まつりの特別展示「昭和古本史」を成功させようと会員は連日展示資料宛めに奔走しています。本誌でも当分連載してゆきますので読者の皆様のご協力をお願い致します。

次号発行予定 七月十五日



〒604 京都市中京区河原町通三条上ル
(朝日会館前)

キ ク オ 書 店

電話(〇七五)二三一一七六三四
振替 京都 八一七六四〇

文芸作品初版本特集

1	すひから	中谷無涯	春陽堂	明39	五〇〇〇
2	心中船	尾崎紅葉	春陽堂	明40	五〇〇〇
3	ツルギ草	一葉亭四迷	文淵堂	明41	三〇〇〇
4	ちび筆	大町桂月	至誠堂	明43	四〇〇〇
5	相聞	与謝野寛	明治書院	明43	九〇〇〇
6	走馬燈	森鷗外	綴山書院	大2	七〇〇〇
7	霧の旅	吉江孤雁	中興館	大3	三〇〇〇
8	小桃二つ	高浜虚子	新橋堂	大4	七〇〇〇
9	新俳文	高浜虚子	小山書院	昭8	三〇〇〇
10	紀行文・俳文	高浜虚子	改造社	昭12	四〇〇〇
11	彼が三十の時	武者小路実篤	洛陽堂	大4	四〇〇〇
12	鴛鴦帳	泉鏡花	止善堂	大7	三〇〇〇
13	番町夜講	泉鏡花	改造社	大13	一八〇〇〇
14	りんどうとなでしこ	泉鏡花	プラトン社	大13	一五〇〇〇
15	薄紅梅	泉鏡花	中公	昭14	一八〇〇〇
16	晶子短歌全集(一)	与謝野晶子	新潮	大8	五〇〇〇
17	唯一者とその有所人間篇	辻潤	評論社	大9	一八〇〇〇
18	蘆間の幻影	三木露風	新潮	大9	三〇〇〇
19	阿武隈心中	久米正雄	新潮社	大10	七〇〇〇
20	野旅行を行きつ	若山牧水	アルス	大10	七〇〇〇
21	猿の舌	内田魯庵	杜翁全集刊行会	大10	四〇〇〇
22	天誅組罷通る	菊地寛	講談社	昭16	二〇〇〇
23	何処まで	徳田秋声	新潮社	昭16	二〇〇〇
24	仮装人物	徳田秋声	中央公論	昭16	一五〇〇〇
25	仏蘭西だより	島崎藤村	新潮社	昭13	四〇〇〇
26	小説東京	上司小剣	大鑑閣	大11	三〇〇〇
27	独語と対話	上田敏	弘学館書店	大4	一八〇〇
28	上田敏詩集	玄文社	詩歌部	大12	六〇〇〇
29	玉簪花	佐藤春夫	新潮社	大12	五〇〇〇
30	永井荷風伝	佐藤春夫	新潮社	昭35	三〇〇〇
31	濁流に泳ぐ	新井久	新井久	大12	四〇〇〇
32	黎明	新井久	新井久	大13	四〇〇〇

33	韓信の死	長興善郎	玄文社	大13	二八〇〇
34	竹澤先生と云ふ人	長興善郎	岩波	大14	四〇〇〇
35	菜種園	長興善郎	岩波	大15	四〇〇〇
36	清水次郎長	矢田掃雲	岩波	大13	二八〇〇
37	風の外套	佐々木茂索	金星堂	大13	三〇〇〇
38	春の光・木々の葉	木木篤夫	アルス	大14	七〇〇〇
39	近代仏蘭西詩集	大木篤夫	アルス	大14	六〇〇〇
40	魚眼洞随筆	室生犀星	新樹社	大14	四〇〇〇
41	黄金の針	室生犀星	中公	昭36	二八〇〇
42	バナヤ文六の思案	岸田國士	改造社	大15	四〇〇〇
43	落葉日記	岸田國士	金星堂	昭12	四〇〇〇
44	氷る舞踊場	中河與一	中央公論社	昭25	一八〇〇
45	失楽の庭	中河與一	河出	昭27	二〇〇〇
46	悲劇の季節	堀口大学	第一書房	昭4	七〇〇〇
47	訳詩集	堀口大学	第一書房	昭4	七〇〇〇
48	訳詩集	堀口大学	第一書房	昭4	七〇〇〇
49	訳詩集	堀口大学	第一書房	昭4	七〇〇〇
50	訳詩集	堀口大学	第一書房	昭4	七〇〇〇
51	訳詩集	堀口大学	第一書房	昭4	七〇〇〇
52	最後の日記	有島武郎	改造社	昭3	四〇〇〇
53	果樹	水上瀧太郎	改造社	昭4	五八〇〇
54	第四貝殻	水上瀧太郎	改造社	昭4	五八〇〇
55	愚弟賢兄	佐々木邦	講談社	昭4	二五〇〇
56	波	山本有三	朝日新聞社	昭4	六〇〇〇
57	大地讃頌	薄田泣菫	朝日新聞社	昭4	六〇〇〇
58	吉良家の兄弟	里見弴	春陽堂	昭5	二五〇〇
59	その人	里見弴	春陽堂	昭5	二五〇〇
60	安城家の兄弟	里見弴	春陽堂	昭5	二五〇〇
61	金の鍵の匣	里見弴	中興館	昭11	三〇〇〇
62	小暴君	里見弴	中興館	昭11	三〇〇〇
63	つゆのあとさき	永井荷風	新潮	昭6	八〇〇〇
64	歌集をめぐる女達	邦枝完二	新潮	昭6	三〇〇〇
65	生活線ABC	細田民樹	中公	昭6	六〇〇〇
66	柘榴のある庭	林房雄	中公	昭6	二五〇〇
67	機械	横光利一	創元社	昭10	四八〇〇
68	武州公秘話	谷崎潤一郎	中公	昭10	四八〇〇
69	鍵	谷崎潤一郎	中公	昭10	四八〇〇
70	鍵と狂言師	谷崎潤一郎	中公	昭10	四八〇〇
71	瘋癲老人日記	谷崎潤一郎	中公	昭37	四〇〇〇

72	悪太郎	尾崎士郎	黎明社	昭10	二五〇〇
73	蘆花家信	徳富蘆花	岩波	昭10	八〇〇〇
74	絶望の逃走	萩原朔太郎	第一書房	昭10	三〇〇〇
75	無からの抗争	萩原朔太郎	白水社	昭12	三〇〇〇
76	日本への回帰	萩原朔太郎	白水社	昭12	三〇〇〇
77	大阪	藤原恒夫	中公	昭12	四〇〇〇
78	土と兵隊	火野葦平	改造社	昭13	二〇〇〇
79	日本武術神妙記	中里介山	大正堂	昭14	二五〇〇
80	生々流転	岡本かの子	中公	昭15	七〇〇〇
81	南山寿	内田百閒	中公	昭15	七〇〇〇
82	きつねの裁判	内田百閒	生活百科刊行会	昭15	二八〇〇
83	道選	中勘助	岩波書店	昭15	六〇〇〇
84	鳩の話	中勘助	岩波書店	昭15	六〇〇〇
85	蜜蜂	中勘助	岩波書店	昭15	六〇〇〇
86	得能五郎の生活と意見	伊藤整	河出	昭16	三〇〇〇
87	高原	川端康成	甲鳥書林	昭17	二八〇〇
88	或阿呆の一生	芥川龍之介	岩波	昭17	二五〇〇
89	木下李太郎選集	中興館	中央公論社	昭17	二〇〇〇
90	日夏秋之介選集	中興館	中央公論社	昭17	二〇〇〇
91	詩人	大仏次郎	講談社	昭21	二八〇〇
92	花紋	大仏次郎	講談社	昭21	二八〇〇
93	おぼろ駕籠	大仏次郎	中公	昭26	二五〇〇
94	創作ノート	林美美子	文芸春秋新社	昭22	二五〇〇
95	風知草	宮本百合子	文芸春秋新社	昭22	二五〇〇
96	嬌恋ひ	上林晚	非凡閣	昭22	二五〇〇
97	文学の野火について	上林晚	主文社	昭22	一八〇〇
98	二流の人	坂口安吾	思案社	昭23	一八〇〇
99	梅里先生行状記	吉川英治	向日書館	昭24	三〇〇〇
100	牢獄の花嫁	吉川英治	向日書館	昭27	二〇〇〇
101	近代悲傷集	釈道空	角川書店	昭27	二八〇〇
102	幻影城	江戸川乱歩	岩谷書店	昭29	六〇〇〇
103	続・幻影城	江戸川乱歩	岩谷書店	昭29	六〇〇〇
104	探偵小説三十年	江戸川乱歩	岩谷書店	昭29	六〇〇〇
105	場末風流	小島政二郎	青蛙房	昭35	二〇〇〇
106	福永武彦詩集	福永武彦	青蛙房	昭35	二〇〇〇
107	寂しき人々	森鴎外	金尾文翔堂	昭44	一〇〇〇
108	蛙	森鴎外	金尾文翔堂	昭44	一〇〇〇

◎当店最新古書目録『特選欧米古書目録』発行ご希望の方は五百円(切手可)をお送り下さい。(残部謹少)

千 604 中京区丸太町通千本西入南側

八木書店古書部

電話(〇七五)八一—三八九〇

- 1 藤森天山筆 勤王家 消息一通 五、〇〇〇
 2 山本菜谷画伯筆書翰一通芸天神門寮館にて 五、〇〇〇
 3 岡本秋暉画伯筆 消息一通 五、〇〇〇
 4 藤堂漫雲画伯筆 消息一通 五、〇〇〇
 5 嶺田楓江先生筆 消息一通 五、〇〇〇
 6 近江国堅田本福寺12世俳人角上筆句入消息一通 五、〇〇〇
 7 扇面 文晁筆 魚之図 一紙 三、〇〇〇
 8 大塚襲水筆 扇面詩一紙名興恕元閑東の人 五、〇〇〇
 9 牧山梅後 句入り墨摺一紙大坂人号二四坊文化頃 三、〇〇〇
 10 龍草虚筆 消息一通 伏見人彦根藩儒 八、〇〇〇
 11 幸野様筆 扇面画賛一紙 明28歿、八、〇〇〇
 12 及川無角筆 渡月橋 俳句一紙 天保頃、五、〇〇〇
 13 貴名松翁筆(省吾) 消息一通 元徳島人 八、〇〇〇
 14 京都府立第一高女学則 大2 二、〇〇〇
 15 中国民画 馬王神(道教) 肉筆彩色一幅 清朝末、八、〇〇〇
 16 木版恋の魁 諸芸種本 大沢栄吉 明18 三、〇〇〇
 17 絵本亀山話 10冊揃 享和3 三、〇〇〇
 18 東九条村 年貢米皆済紙くくり 江戸末、明3 三、〇〇〇
 19 乾山 文押印 版本小品一個 三、〇〇〇
 20 かな字正信偈 小本汚 文政2 三、〇〇〇
 21 短冊石丸喜世子 拝郷蓮茵 惠聖院仏橋聖海尼各枚 三、〇〇〇
 22 短冊岩井藍水 加茂季鷹 花山院家厚 矢野秋溪 各 三、〇〇〇
 23 短冊茶人佐々木三味 北上聖牛 俳人北村呉明各 明 三、〇〇〇
 24 短冊遠山英一 高島米峰 水菰盤 生源寺布烈各 二、〇〇〇
 25 短冊桐荷大神孝悌 河本延之 京医秋岡守達各枚 二、〇〇〇
 26 短冊閑無字 堤梅通 奥谷秋石 大徳寺雪艇各枚 五、〇〇〇
 27 短冊 石川一夢 江戸講談師 安政元没 三、〇〇〇
 28 短冊荒川民部重郷 田中駿河守周昭 能井文海各枚 三、〇〇〇
 29 短冊山崎大耕 紫紅 池辺釣 天野廣丸 各一枚 五、〇〇〇
 30 短冊狂歌宗匠耳通本 鐘近 八、〇〇〇
 31 短冊青蓮院宮尊祐法親王 大國隆正 僧部徳水各枚 五、〇〇〇
 32 短冊妙心寺達雲 嶺南林雲達 加藤竹斎杉之画各枚 三、〇〇〇
 33 短冊石原正明宣長門尾張人 三知院門跡久世成章各 二、〇〇〇
 34 短冊堀田節子佐倉城主妻 古賀梅谷梅室門 各枚 三、〇〇〇
 35 短冊高兵部大輔紀季郷 土井山月芹舎門近江人各枚 三、〇〇〇
 36 短冊蓬成 二葉筆江戸人荒井六栄園 貞信尼各枚 二、〇〇〇
 37 短冊伏見稲荷加藤誠定 中西右隆 香川黄中各枚 二、〇〇〇
 38 短冊平野素寿西京牛王神社 藤大和守祐貞平野社各 二、〇〇〇
 39 短冊大田江海 湯浅楓園 朝山敦綱九条諸太夫各枚 二、〇〇〇
 40 短冊打鷹庵鶴田 中島華鳳 梅園舎洪各 二、〇〇〇
 41 免場黒印状 55通 下木崎村 延宝7、八、〇〇〇
 42 京三高70周年記念号 昭14 二、〇〇〇
 43 大徳寺言々子和尚贊福祿寿画 大機和尚筆一紙しみ 八、〇〇〇
 44 白鹿洞字規集註 山崎閑斎 慶安3 三、〇〇〇
 45 旧和歌山藩御書寫 消息一紙 傷有 延宝5 五、〇〇〇
 46 永樂善五郎保全筆 消息一紙 傷有 江戸末 三、〇〇〇
 47 新愛知新聞社講談太閤記美濃合戦 明41 三、〇〇〇
 48 醒醐中納言輝久卿筆 和歌一紙 八、〇〇〇
 49 近世俠客伝 前編会津の小鉄寺町御池殿誌屋刊明16 八、〇〇〇
 50 郵便5錢切手左之見本通發行候 布今書 明9 二、〇〇〇
 51 宝印集 上中下3冊全国寺院朱印集 天保2 三、〇〇〇
 52 料理献立覚書 寛政2 三、〇〇〇
 53 佐藤玄保筆仕官推挙状一通此者大坂之陣手柄云々 八、〇〇〇
 54 小兒養育全礎葉王門能書 葉広告書 明7 二、〇〇〇
 55 共撰明治歌林一集、51集 橘道守編 明22、三、〇〇〇
 56 因縁辨断説法詞料鈔終釈部一七卷一卷落丁幕末 五、〇〇〇
 57 和歌山藩士雑詠秀句集 狂句人菓子軒 安政5 二、〇〇〇
 58 幕天社俳諧集 室町一条橘仙堂 表裏欠 文政2 三、〇〇〇
 59 京都市工業研究所報告45912(陶器) 昭48 三、〇〇〇
 60 近江国高島郡村町名 書道手本帖川瀬益 明12 二、〇〇〇
 61 源氏物語 よもきふ 古写本 三、〇〇〇
 62 守幹事 百寿図一紙 寿之字のみ百字 寛政5 三、〇〇〇
 63 大西椿年筆 南画一幅 五、〇〇〇
 64 小野山筆 詩一幅 しみ有 三、〇〇〇
 65 中国人筆 鹿之図 清朝期 三、〇〇〇
 66 歲徳神 肉筆彩色図 一幅 一五、〇〇〇
 67 塩川文麟筆 魚画入消息一幅 傷物 五、〇〇〇
 68 天台宗正覚院豪徳大僧正99才消息一幅 文政7 八、〇〇〇
 69 信州松代城主温斎筆 一行一幅 八、〇〇〇
 70 手島信敬筆 太公望山贊一幅 一紙 三、〇〇〇
 71 楠公書畫 大日本海山指頭書 一紙 三、〇〇〇
 72 近衛流森遊雲書 和漢朗詠 卷 三、〇〇〇
 73 秀奇筆 神興図背丹贊一幅戸田侯300年祭 一五、〇〇〇
 74 白鬼総動臨 初代管長筆 一幅 三、〇〇〇
 75 梅村景山筆 於富士山頂上印竹取物語之図一幅 五、〇〇〇
 76 永川筆江戸風俗スケッチ一紙 五、〇〇〇
 77 宗門寺禮那請合之提切支丹宗門禁制状并不受不施件 八、〇〇〇
 78 荒木正義筆 一行一幅 三、〇〇〇
 79 大窪詩仙筆号天民 扇面詩一幅 明31 三、〇〇〇
 80 讃岐名勝真景一紙 写真銅版 明32 二、〇〇〇
 81 応永以降城名家書画及陶器陣列目錄京博物館 大12 三、〇〇〇
 82 富山市全図 明治 一五、〇〇〇
 83 女子細工物見本古製18点は付帳お手玉 明治 二、〇〇〇
 84 葉書 月斗筆 中村直勝 兼常清佐 来馬琢道各一枚 二、〇〇〇
 85 葉書 萩野由之帝國理科大学明42 忽滑谷快天各枚 八、〇〇〇
 86 絵葉書 萩野由之帝國理科大学明42 忽滑谷快天各枚 二、〇〇〇
 87 絵葉書 富岡益太郎 大江良起 幸田成友 各一枚 二、〇〇〇
 88 絵葉書 日置黙仙明44 黒板勝美在慶州 各一枚 二、〇〇〇
 89 絵葉書 新村出 在独逸 在印度洋 明41各一枚 二、〇〇〇
 90 繪葉書詩文鈔 福井子一岸和田藩士大坂子卓館主 昭9 三、〇〇〇
 91 赤絵口伝 楽、法唐物等口伝書 横小本文久2 一五、〇〇〇
 92 三条小川乾徳善斎考 四柱推命書一通 天保13 三、〇〇〇
 93 近江国諸職人中条々御朱印写 信長秀吉 天正411 一五、〇〇〇
 94 京焼の産地と市場 京都市産業局商工課 昭30 三、〇〇〇
 95 斗室集 四冊映入敬冲神撰非完品 明39 八、〇〇〇
 96 三国志 四冊揃 光緒18 一五、〇〇〇
 97 研樵画 山水一幅 折傷有 清初 五、〇〇〇
 98 楠正行像 一幅 四条畷神社複製 明治 三、〇〇〇
 99 高松公祐卿筆 鶴之歌一幅 水ぬれ 三、〇〇〇
 100 五節句 おひな様之図 肉筆彩色一幅 文政12 五、〇〇〇
 101 井伊直中書状一紙銀管伝得之状幸清次郎殿 江戸末 二、〇〇〇
 102 伊吹上通達(きもぐさ)百目入袋のみ一枚 天保頃 一五、〇〇〇
 103 賀医学療落成詩并序 浅井先生 写本 明30 三、〇〇〇
 104 豊島禎国筆 諸事日記 明30 一五、〇〇〇
 105 其惟正受東堂大和尚詩喝外一紙めぐり古筆 三、〇〇〇
 106 金原長衛繩正筆極意規矩一卷大工相伝書文久9 三、〇〇〇
 107 絵入和朝艶道通鑑 3冊合本 享保4 三、〇〇〇
 108 東山新日吉門跡加行伝受記阿闍梨寛任筆 元和9 一五、〇〇〇
 109 養老公園開園式煙火会 会主倍榮社 明13 五、〇〇〇
 110 日本侵略中国外交秘史陸奥光善襲徳伯沢 民国18 五、〇〇〇
 111 近江国蒲生郡佐々木明神記佐々木兵庫頭 明暦2 五、〇〇〇

〒600 京都市下京区寺町通仏光寺下ル

三密堂書店

電話(〇七五) 三五一九六六三
振替 京都 四一三三七二

(今回は仏教特集)

1	日本仏教絵画史	高崎富士彦著 求龍堂	昭41	四、〇〇〇
2	仏教概論	金子大栄著 岩波書店	昭45	三、〇〇〇
3	和英対訳仏教聖典仏教伝道協会編同刊行		昭43	三、〇〇〇
4	日本仏教講座	藤枝昌道編 顯真学苑	昭12	三、〇〇〇
5	日本の仏教	境野黄洋著 丙午出版	昭35	二、〇〇〇
6	仏教演説	川合清九著 丙午出版	昭35	二、〇〇〇
7	聖徳太子御伝	山岡超舟編 丙午出版	昭15	三、〇〇〇
8	聖徳太子	亀井勝一郎著 創元社	昭21	一、〇〇〇
9	聖徳餘光	辻善之助著 同刊行会	昭15	二、〇〇〇
10	追善之榮	河村泰太郎編 弘文社	昭20	三、〇〇〇
11	十二宗綱要	町元谷空編 文昌堂	昭20	二、〇〇〇
12	三祖大師信心録鈔誌公和尚撰	私家版 膳写版	昭20	一、〇〇〇
13	公慶上人年譜	沙門庸性編 日本美術社	昭再	三、〇〇〇
14	五家参詳要路門	東嶺門慈編 貝葉書院	昭再	二、〇〇〇
15	改訂仏祖正伝神祇鈔鈔御道担担著	鴻盟社	昭9	二、〇〇〇
16	雪實和尚百則頌古飯田橋隱著	森江書店	昭20	一、〇〇〇
17	冠註葉藏原人論	町元谷空編 貝葉書院	昭20	一、〇〇〇
18	教誡律儀講述	沙門釋慧 赤井書肆	昭再	二、〇〇〇
19	天台四教儀	森井国雄編 文政堂	昭再	二、〇〇〇
20	解深密經	唐三藏法師譯 貝葉書院	昭再	二、〇〇〇
21	宿曜經	澤田景風註 文政堂	昭再	二、〇〇〇
22	十不二門指要鈔	本岩佐善編 三書房	昭再	二、〇〇〇
23	三教指歸講話	大田亮觀著 高田新報	昭36	一、〇〇〇
24	弘法大師御伝記	神谷敏夫著 高田新報	昭36	一、〇〇〇
25	文類聚鈔辨要	占部順章著 為法館	昭13	二、〇〇〇
26	特殊布教講演集	現代布教全書法蔵館	昭7	三、〇〇〇
27	信疑決判説教	木村微量著 與教書院	昭14	二、〇〇〇
28	大無量壽經	尾山真詞著 經典刊行会	昭5	一、〇〇〇
29	日蓮聖人御伝	妹尾朋著 平楽寺	昭13	二、〇〇〇
30	日蓮大聖人の教義堀米日淳上人日蓮	有明堂文庫 有明堂	昭48	八、〇〇〇
31	日蓮上人文集	有明堂文庫 有明堂	昭3	一、〇〇〇
32	和譯註解法華經	河原智敏著 法響社	昭11	二、〇〇〇
33	平易に説いた法華經并上賢海著	經典刊行会	昭8	一、〇〇〇

〒602 京都市上京区烏丸通り上御霊前下ル
上御霊前町四二二

萩書房

電話(〇七五) 四二一三三七二
振替 京都 八一四三六

33	ヒルベルト文庫目録	名古屋大学理学部数教室	昭46	五、〇〇〇
32	芦屋大学創立十五周年記念論文集		昭54	二、〇〇〇
31	地蔵尊の研究	真鍋廣済 富山房書店	昭44	四、五〇〇
30	お断りの研究	日曜学校叢書1	大11	一、五〇〇
29	新時代の宇宙研究	関口鯉吉譯 岩波書店	昭2	二、〇〇〇
28	宇宙開闢論史	アレニウス著 戸直藏 小川清澤	昭2	二、〇〇〇
27	技術発達史	書込アリ 加茂儀一 高山書院	昭19	三、五〇〇
26	民族形成と鉄の文明	六戸儀一 道統社	昭17	三、五〇〇
25	現代の青年運動	海野幸徳 内外出版	大13	五、〇〇〇
24	西洋古典上中下三冊	小野武雄 長崎書店	昭18	二、〇〇〇
23	支那快談怪奇小説野望鳴	山縣初男 秋風書房	昭10	二、〇〇〇
22	海・船・港	初版 布田廣花 創元社	昭8	四、〇〇〇
21	やしなひぐさ	小林南平 松菊山房	昭2	二、〇〇〇
20	はるあはれ	初版函付 室生屋星 中央公論社	昭37	二、〇〇〇
19	犀屋発句集	初版 室生屋星 櫻井書店	昭18	二、五〇〇
18	残雪	初版函付 室生屋星 竹村書房	昭17	三、〇〇〇
17	椎名麟三研究	佐々木啓一 冬樹社 背少痛	昭49	二、五〇〇
16	北條民雄全集上・下巻	二冊 川端康成編	昭14	四、五〇〇
15	明治三十四年住友事業案内		昭34	二、五〇〇
14	明治三十八年三井銀行案内		明28	二、〇〇〇
13	満韓地図附甲種並及欧羅巴略図	六版 時事新報社	明37	三、五〇〇
12	小学画本甲種後編卷七	川端玉章画 集英堂	明34	四、〇〇〇
11	史学原理第二編	下山寛一郎著 丸善商社	明32	二、五〇〇
10	世界歴史讀第五編ハンニバル	大月桂月著 博文館	明32	二、〇〇〇
9	通俗家屋改良建築法	井上繁次郎著 博文館	明35	二、〇〇〇
8	国学院雑誌	第47卷第10号 民間信仰研究号	昭10	二、五〇〇
7	雑誌都の花	第四・六号 金港堂	明22	二、〇〇〇
6	雑誌学の燈	第二十二号終刊号 丸善書店	明31	二、〇〇〇
5	雑誌日本之文藝	第拾号 博文館	明21	二、五〇〇
4	雑誌日本之時事	第拾号 博文館	明21	二、五〇〇
3	雑誌國民之友	民友社 第2532343538406264号	明22	各一、五〇〇
2	雑誌平民之友	大阪平民館 第10・21号	明29	各三、〇〇〇
1	雑誌寶府川安宅編第13・4・8・9号	第7号 博文館	明31	一、五〇〇

〒606 京都市左京区今出川通百万遍東入
(京都大学前)

井上書店

電話(〇七五) 七八一三三五二
振替 京都 七一二四九七

1	日本農民文学史	太田・小田切農山漁村文化協会	昭43	一、〇〇〇
2	谷崎潤一郎論	野口武彦初版中央公論社	昭48	一、〇〇〇
3	考證永井尚風	秋庭太郎 岩波	昭41	二、〇〇〇
4	芝居ざんげ	小林一三 三田文房	昭27	一、〇〇〇
5	随筆不断経	齊藤茂吉 初 牡丹書房	昭22	一、〇〇〇
6	天才と狂人の間	杉森久英 函初 河出	昭37	一、〇〇〇
7	砂の上に	大仏次郎 函初 光風社	昭37	一、〇〇〇
8	泥の世界	小田実 函初 河出書房	昭40	一、〇〇〇
9	鮎川信夫戦中記	函初 思潮社	昭40	二、〇〇〇
10	架空と現実 植谷雄高対話集	函初 南北社	昭44	一、〇〇〇
11	青空の人たち	平林英子 函初 皆美	昭44	一、〇〇〇
12	絵空こと	吉田健一 初函初 河出新社	昭46	二、〇〇〇
13	本が語ってくれること	吉田健一 初函初 河出新社	昭50	二、〇〇〇
14	読む領分	吉田健一 初函初 新潮社	昭54	二、〇〇〇
15	時をたせる為に	吉田健一 初函初 小澤書店	昭51	二、〇〇〇
16	天際の借景	山本健吉 初函初 集英社	昭52	二、〇〇〇
17	前賢餘韻	石川淳 初函 岩波	昭39	二、〇〇〇
18	座談会明治文学史	柳田泉他 岩波	昭47	二、〇〇〇
19	森田たま随筆全集	函初 全3冊 講談社	昭38	一、〇〇〇
20	岩野泡鳴	大久保典夫 初函 南北社	昭48	一、〇〇〇
21	定家百首・良夜瀾漫	塚本邦雄 初函 河出新報	昭48	一、〇〇〇
22	茂吉秀歌	塚本邦雄 初函 文芸春秋	昭53	一、〇〇〇
23	随筆拾葉龍	堀口大学 初函 彌生書房	昭47	一、〇〇〇
24	京都を中心とする校外教育	京都市小学校教員会編	昭13	二、〇〇〇
25	学修法 学修法	澤柳政太郎 同文館	昭42	二、〇〇〇
26	思想 No.501	総目次 岩波書店	昭41	一、〇〇〇
27	思想 No.555	ヘーゲル 岩波書店	昭45	一、〇〇〇
28	森鷗外	磯貝英夫 明治書院	昭54	三、〇〇〇
29	日本封建制成立過程の研究	永原 岩波	昭47	三、〇〇〇
30	ランボオ全作品集	栗津 A5版思想社	昭48	三、〇〇〇
31	古文書文例大字典	柏書房	昭55	八、〇〇〇
32	現代日本文学論争史	上中下 全3冊 未来社	昭44	五、〇〇〇
33	瀬石全集	岩波書店 全18冊	昭49	五、〇〇〇

沢田書店

〒602 京都市上京区烏丸通今出川上ル
同志社正門前
電話(〇七五) 四五一〇五二三
振替 京都 三一一九一四八

33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
堂々手廻り 阿ボリネール 学芸書林編集 カバー付	阿ボリネール 腐つてゆく魔術師ドラゴン 画進出版社 函付	随筆季節と詩心 堀口大宇 第一書房	満鉄を語る 松岡洋右 第一出版	国民に訴ふ 中野正剛大演説集 平凡社 函付	魂の外交 口説戦争に於ける小村候多熊大郎手書 函付	産業革命史研究 上田貞次郎 同文館	支那民族発展史 旗田巍 博文館	屈辱と解放の歴史 北原素作 北大路書房	マルティン・ルター フライタフ・高橋派 未出版 初版	報徳教祖 一宮翁夜話 福住正兄 報徳学図書	随筆武士道 大木陽堂 教材社 函付	増補最新日本歴史年表 大森他 三省堂	日本中世史 原勝部 創元社カバー付	日本に於ける武家政治の歴史 新見吉治 創元社カバー付	増訂日本思想史研究 村岡典嗣 岩波書店 函付	現代文章軌範 菊地寛 非凡閣	文章読本 谷崎潤一郎 中央公論社 カバー付	文章資料美辞と形容 吉本英一 桑文社 函付	縮刷新文章講話 五十嵐力早稲田大学出版部	和歌入門の知識 窪田空穂 非凡閣 函付	短歌の作り方味ひ方 窪田空穂他 あかね書房	短歌文法七十講 生田松本著 立命館出版部	和歌読本 太田水穂 富士書房	国文教育 日本文学体系 第四巻八号	国語と国文学 芳賀博士追悼号 第三十六号	国民性十論 芳賀矢一 富山房	近松浄瑠璃集 上中下三冊 有朋堂文庫	狂言記、祝詞、風土記 有朋堂文庫	日本古典全集 万葉集品物図絵上下二冊	源氏物語 窪田空穂 春秋社 函付	古今和歌集正義 四冊 香川景樹 積善館全帙	
昭50	昭13	昭14	昭12	昭4	昭16	昭25	昭15	昭25	昭6	昭42	昭16	昭11	昭16	昭16	昭15	昭15	昭17	昭14	昭9	昭26	昭14	昭5	昭15	昭2	昭10	昭3	昭15	昭2	昭15	昭31	昭29	
一、三〇〇	一、四〇〇	一、八〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、三〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、八〇〇	二、五〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇	一、三〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	

石川古本店

〒606 京都市左京区一乗寺里ノ前町24-12
電話(〇七五) 七二一五四二九
振替 京都 七二二〇八九

33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
お人形帖 少女の友フロック 中原淳一	船鑑フロク(ボール紙製不ぞろい)少年倶楽部附録	陸海軍総攻撃第十六号 少年倶楽部第十六号一附録	現代中国人名辞典 竹之内安己 国書刊行会	シルク・ロード史研究 長澤和俊 国書刊行会	道教的総合的研究 酒井忠夫 国書刊行会	道元禅師伝研究 中世古様道国書刊行会	神道史論叢 足立康 国書刊行会	日本建築史 足立康 国書刊行会	古建築鑑賞 川勝政太郎 国書刊行会	建築構法 福島正人 国書刊行会	ライトの建築論 杉本丈太郎(背イタミ) 谷川正己 訳	日本建築 板垣鷹穂 藤原義一	日本古建築図録(復刻版) 藤原義一	日本古建築図録 藤原義一 二冊揃	昭和十二年頃満洲消印 ハガキ簡書 二二一通	南満洲鉄道株式会社二十年略史	満洲の展望(大正写真工芸所大連営業部)	満洲事変 国防献回記念録	大西郷展覧会記念写真帖 (京都大丸)	精版印刷KKノ現況(カラー図版多数入り)	遠州流挿花前百首 全	平安通記 聯合計画予定大略(虫喰い)	小学唱歌集 第一巻 第二巻	金の鳥 第一巻 第二巻	アサヒグラフ(大東亜戦争) 九十二冊 一括	陸海軍人講義録 創刊号ノ六迄 六冊	淑女界 大正四年ノ九年 二十七冊 一括	廓外芸妓代定備表 一枚(北新地芸妓取扱所)	ひまわり(復刻版) 全九冊 国書刊行会	ひまわり 第二巻八号	スクリーンピクトリアル 第10巻5・6・8・9号	
昭10	昭7	昭4	昭56	昭58	昭56	昭54	昭59	昭18	昭22	昭53	昭50	昭6	昭17	昭22	昭2	昭8	昭7	昭1	昭26	昭18	昭11	昭18	昭11	昭17	昭15	昭14	昭15	昭14	昭59	昭23	昭15	
四、〇〇〇	八、〇〇〇	四、〇〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	

思わぬ出費!

その様な時、御利用下さい。

・出町店・京都市上京区河原町今出川上ル
☎231-7711 番

ZENSHOD
本専門の質屋
善書堂

電話 (〇七五) 四九一—三〇七

〒603 京都市北区小山下内河原町六三

33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
こばのおけいこ四 もんぶしやう	ヨイコドモ 上 下 モンブシヤウ	ヨミカタ一 モンブシヤウ	尋常小學校修身書 兒童用卷一 文部省	高等科修身一男子用 文部省	カズノホン四 モンブシヤウ	エノホン三、四 モンブシヤウ	新尋常小学唱歌 第一、二、三、五、六学年 日本教育音楽協会	新訂高等小学唱歌 第一、二、三、四、五、六学年 日本教育音楽協会	新訂高等小学唱歌 第一、二、三、四、五、六学年 日本教育音楽協会	オルガン・ピアノ楽譜 音楽科教育法 東京芸大出版 開成館	オムニバス研究 音楽科教育法 東京芸大出版 開成館	教育研究増刊 音楽教育の研究 文部省	初等科国史 上 教師用 文部省	中等歴史 一 文部省	初等科國語 三・五 文部省	生活学校の機構と經營 渡部政盛 文部省	大正 殉職教育者四撰及遺稿 松本賛吉 文部省	體育ダンス 伊沢 栄 文部省	子供のための人形劇脚本 第一輯 内山憲堂 文部省	趣味の世界科学史 理科教育増刊 昭13 昭和13	木材工芸一般 木杔恕一 昭4 昭和4	趣味の日本科学史 理科教育増刊 昭12 昭和12	小学新手工 高等一・二年女子用 石谷辰治郎 昭6各二、 昭和6各二、	小学新手工 高等一・二年女子用 石谷辰治郎 昭6各二、 昭和6各二、	石井小浪学校舞踊 石井小浪 昭10 昭和10	九州地方事視察報告 京都府小学校 京師學團 昭13 昭和13	京都薬学専門学校一覽 鶴岡同窓会（滋賀県） 昭2各一、五 昭和2各一、五	三十周年記念誌 同窓会 校友會（滋賀県） 昭14 昭和14	会報No.37 47 50 51 昭2各一、五 昭和2各一、五	三誌 主記、古号 昭11 昭和11	同窓会誌No.32 33 昭6各二、 昭和6各二、	社会教育の現状 文部省社会教育局編 昭28各五、 昭和28各五、

[illegible]

73	回顧七十年	正木直彦	昭和14	三	四〇〇〇
74	江田島第一報	山本地榮	昭和14	三	四〇〇〇
75	イリン書物の歴史	八住利雄	昭和14	三	四〇〇〇
76	武士道	山岡鉄舟口述 勝海舟評註	昭和14	三	四〇〇〇
77	婦人世間道場	春山作樹	昭和11	三	四〇〇〇
78	あの巴里この巴里	柳 亮	昭和24	二	四〇〇〇
79	頼山陽とその母	木崎愛吉 印あり	昭和44	明	五〇〇〇
80	野口英世書翰と母の生涯	橘 輝	昭和18	大	四〇〇〇
81	二葉亭全集	一、二巻 坪内雄藏編	昭和18	大	四〇〇〇
82	独歩書簡	国木田治子編	昭和17	大	三〇〇〇
83	戯曲東湖と反射爐	仲木貞一 初版カバ―	昭和17	三	三〇〇〇
84	抒情小曲集	生田春月 初版背少痛み	昭和4	大	五〇〇〇
85	甲鳥園隨筆	五十嵐力 初版	昭和13	大	三〇〇〇
86	生活の窓ひらく	新居格 初版	昭和11	昭	三〇〇〇
87	石斉隨筆	田辺朝郎 初版	昭和12	昭	三〇〇〇
88	旅愁第二篇	横光利一 初版	昭和21	昭	三〇〇〇
89	小説 海軍	岩田豊雄 初版	昭和18	昭	四〇〇〇
90	平傑作集	岡本一平 初版 表紙少痛	昭和15	大	四〇〇〇
91	女優部屋	長田幹彦 初版	昭和21	昭	二〇〇〇
92	明治の話題	柴田青曲 函	昭和37	昭	三〇〇〇
93	隨筆集 金柑	尾崎一雄 初版 函	昭和16	五	三〇〇〇
94	愛の約束	中河与一 初版 カバ―	昭和15	昭	三〇〇〇
95	母と妻	真杉静枝 初版	昭和18	昭	三〇〇〇
96	白花	岡田禎子 初版 カバ―	昭和17	大	三〇〇〇
97	われ爾を救ふ第三集	山中峯太郎 七版	昭和10	五	三〇〇〇
98	旅順	立野信之 初版	昭和19	昭	三〇〇〇
99	落のとう	山代 巴 カバ―	昭和19	元	三〇〇〇
100	寛容	神崎武雄 初版カバ―	昭和19	昭	三〇〇〇
101	鰯の命日	美土路春泥 初版 函	昭和15	大	五〇〇〇
102	かういふ女	平林たけ子 初版	昭和22	昭	二〇〇〇
103	赤と緑	里見勝蔵 初版	昭和17	昭	三〇〇〇
104	森林の池畔で	小田巖夫 初版	昭和19	昭	三〇〇〇
105	結婚の幸福	阿部静枝 初版	昭和17	昭	三〇〇〇
106	赤虫島日記	北村達三 初版カバ―	昭和18	昭	四〇〇〇
107	怪貞操	石村兼子 三版 函	昭和2	五	二〇〇〇
108	白糸露人村	湯浅克衡 初版	昭和19	昭	二〇〇〇
109	少国民版 海軍	岩田豊雄 初版	昭和18	昭	五〇〇〇
110	千鳴丸	大鹿卓 初版 カバ―	昭和14	昭	四〇〇〇
111	病院船従軍記	岡田禎子 初版 カバ―	昭和18	昭	四〇〇〇

藤井文政堂

電話(〇七五)三五一九三六三
振替 大阪 七一三一五一

〒600 京都市下京区寺町通り五条上ル

33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
真言付法伝外七部	弘法大師伝全集 第一巻欠 六六新報社 和装九冊	鎮宅靈符神 金峯山人 A 5	和訳十巻草 岡田契昌 A 5	初等仏教読本教案 細川況城 第六教案 昭8	住生礼讃私録 西方庵 和装 昭18	仏説阿弥陀経講義 通俗仏教講話筆記 A 5 明37	たすけのだい 柳井徳次郎 A 5 二冊 一五〇〇	おふでさき概説 中山正善 A 5 昭43 一五〇〇	天理教祖の世界観 上田喜成 A 5 昭43 二〇〇〇	神の実現としての天理教 中山正善 A 5 昭44 一〇〇〇	紫外線療法 佐藤太平 B 6 昭5 一五〇〇	天心靈明 黒川富三郎 A 5 昭15 一〇〇〇	近世小品文鈔 土屋栄 虫喰有 三冊 明18 一〇〇〇	和文読本 稲垣千穎 虫喰有 三冊 明18 一八〇〇	和文読本 中根淑 二冊 明9 二〇〇〇	頭註 祭典式 皇学会 明33 一〇〇〇	諸祭祝詞文例 岡直盧 明13 一〇〇〇	用綴 祝詞作文集成 活版 明38 一五〇〇	増補 祝詞全書 附祭祭要儀 活版 明40 一三〇〇	訂正 祝詞略解 久保季茲著 虫喰有活版六冊 明16 三、五〇〇	祝詞略解 上編 神道事務局 五冊揃 明9 三、五〇〇	祝詞文例 文政版四 五〇〇	天満宮御伝記書 絵入 二冊 明9 三、五〇〇	葦水草 香川景樹 少シケ本 大本 三冊 四、〇〇〇	柱園一枝 鈴木重胤 小本 四冊 六、五〇〇	詞乃廉芥 薄棧紙袖珍本 一冊 八、〇〇〇	草菴和歌集類題 観月筆 写本 一冊 三、〇〇〇	谷森善臣宗匠加点点字和歌文章稿集 観月筆 写本 一冊 四、〇〇〇	春日野大般若経 奇禽珍鳥の図37図 卷子仕立 一巻 二、〇〇〇	幸野様續肉筆 魚蝦伝巻 15図 卷子仕立 一巻 二、〇〇〇	徳力富吉郎肉筆「宇治橋」絵盆 八、五〇〇	

竹岡書店

電話(〇七五)七六一四四五四
振替 京都 五一四二六二二

〒606 京都市左京区浄土寺西田町八十一

32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
法律に於ける矛盾と調和	法律に於ける具体的妥当性	法律に於ける進化的と普遍的	自由の法律統制の法律	法の道徳	法の本質	法の基本問題	法的世界観	法学的世界観	パウンド 法律史観	シュタムラー 法及び法学の本質	アクイナス 法について	ボグビン ポリネシアに於ける法と秩序	憲法の心	日本の死の商人	制度・時・人	法律と人間	ある生涯 瀧川幸辰一文と人	法窓夜話 (献本署名入り)	法窓夜話	日本の裁判	小島昌太郎博士古稀祝賀記念論文集	社会の諸問題	分配理論の研究	刑事法論の諸相	過失犯①② 日沖憲郎博士還暦祝賀 2冊	工業所有権法・民事法の課題	現代憲法の基本問題	法と経済の基本問題	法と政治における諸問題	法学及び政治学の諸問題	ボアソナード先生功績記念
牧野英一	牧野英一	牧野英一	牧野英一	恒藤 恭	恒藤 恭	恒藤 恭	加藤新平	高柳賢三	和田譯	稲垣良典	吉田一譯	田中伊三	岡倉古志郎	末川 博	末川 博	末川 博	末川 博	末川 博	末川 博	戒能通孝	高田保馬先生喜寿祝賀	井上正治博士還暦祝賀 上巻	馬瀬丈夫	有倉達吉先生還暦	有倉達吉先生還暦	恒藤博士還暦記念	専修大学法律部	吉田一枝先生	同委員会		
大13	大14	大15	大15	大15	大15	大15	大15	大15	大15	大15	大15	大15	大15	大15	大15	大15	大15	大15	大15	大15	大15	大15	大15	大15	大15	大15	大15	大15	大15	大15	大15

68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33
現代の遺言問題	日本親族法昭和十七年	イデオロギーとしての家族制度	不法原因給付と信義衡平則	不法行為論	判例不法行為論	不当利得の研究	表見代理論序説	債権 (末川博法律論文集)	占有と所有	判例民法研究	法律行為論	水の法律	不動産鑑定理論の総合研究	土地法制概論	官史の黙秘義務(背痛)	改訂 日本行政法論	言論・出版の自由	憲法論	憲法論	憲法論	憲法論	憲法論	憲法論	憲法論	憲法論	憲法論	憲法論	憲法論	憲法論	憲法論	憲法論	憲法論	憲法論	憲法論	憲法論
太田武男編	中川善之助	川島武宣	中川 毅	岩井万平	岩井万平	岩井万平	岩井万平	岩井万平	岩井万平	岩井万平	岩井万平	岩井万平	岩井万平	岩井万平	岩井万平	岩井万平	岩井万平	岩井万平	岩井万平	岩井万平	岩井万平	岩井万平	岩井万平	岩井万平	岩井万平	岩井万平	岩井万平	岩井万平	岩井万平	岩井万平	岩井万平	岩井万平	岩井万平	岩井万平	
昭54	昭18	昭34	昭43	昭10	昭11	昭12	昭13	昭14	昭15	昭16	昭17	昭18	昭19	昭20	昭21	昭22	昭23	昭24	昭25	昭26	昭27	昭28	昭29	昭30	昭31	昭32	昭33	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	昭40	昭41

電話(〇七五)二三二一五八八
振替 京都 三三二六

〒604 京都市中京区河原町通六角下ル

赤尾照文堂

電話(〇七五)二二一—一五八八
振替 京都 三三二六

〒604 京都市中京区河原町通六角下ル

1	鯨のお詣り	小穴隆一	昭15	五、三〇
2	旧友芥川龍之介	恒藤 恭	昭24	二、〇〇〇
3	芥川龍之介研究	吉田精一編	昭33	三、三〇〇
4	芥川龍之介未定稿集	葛卷義典編	昭43	三、三〇〇
5	生田春月読本	二十日会同人編	昭48	四、〇〇〇
6	石川淳論	野口武彦	昭44	七、〇〇〇
7	啄木の詩歌と其一生	中西悟堂	昭3	五、八〇
8	啄木を繞る人々	吉田孤羊	昭4	四、八〇
9	啄木遍路	大木雄二	昭15	四、八〇
10	啄木覚書	菟間恵文	昭18	五、五〇
11	啄木晩年の社会思想	川並秀雄	昭22	五、五〇
12	啄木研究	吉田孤羊	昭27	四、〇〇〇
13	評伝石川啄木	久保田正文	昭34	三、八〇
14	函館の砂い啄木の歌と私と	宮崎郁雨	昭35	三、八〇
15	石川啄木必携	岩城之徳編	昭42	八、五〇
16	注解考説泉鏡花 日本橋	朝田祥次郎	昭49	二、〇〇〇
17	詩人 その生涯と運命	小高根二郎	昭51	七、〇〇〇
18	評伝伊良子清白	楠井不二	昭46	三、五〇
19	岩野泡鳴	大久保典夫	昭38	四、八〇
20	梅崎春生論	中井正義	昭44	三、五〇
21	大江健三郎論	河原義治	昭46	一、〇〇〇
22	織田作之助研究	阿部正路	昭49	三、五〇
23	折口信夫そして闇的存在	古谷綱武	昭43	六、八〇
24	評伝川端康成 増補版	舟橋聖一	昭17	四、五〇
25	北村透谷	笹淵友一	昭25	一、五〇〇
26	北村透谷	坂本 浩	昭32	一、〇〇〇
27	北村透谷	川田 順	昭10	四、〇〇〇
28	利玄と憲吉	坂本 浩	昭17	三、五〇
29	国木田独歩	斎藤市花	昭18	七、〇〇〇
30	国木田独歩とその周囲	戸坂康二	昭42	三、五〇
31	国木田独歩全集 資料編(年譜・日記他)	伊藤秀雄	昭46	三、〇〇〇
32	久保田万太郎			
33	黒岩涙香 その小説のすべて			
34	古泉千樫とその歌	橋本徳寿	昭31	四、五〇
35	幸田露伴	柳田 泉	昭17	七、八〇
36	露伴遺珠	塩谷 貞	昭23	三、〇〇〇
37	斎藤茂吉	肥田皓三編	昭53	一、八〇〇
38	茂吉随聞 全3巻	平野仁啓	昭18	四、〇〇〇
39	斎藤茂吉言行 全2巻	田中隆尚	昭35	五、五〇
40	坂口安吾研究 全2巻	佐藤佐太郎	昭48	一、五〇〇
41	作品研究 志賀直哉の短篇	関井光男	昭47	二、〇〇〇
42	島崎藤村	西尾美穂	昭13	一、五〇〇
43	島崎藤村	鏑田研一	昭13	七、〇〇〇
44	「破戒」をめぐる藤村の手紙	木枝増一	昭18	三、八〇〇
45	藤村の思ひ出	島崎楯雄編	昭23	四、〇〇〇
46	回想的島崎藤村	島崎静子	昭25	八、〇〇〇
47	回想の島崎藤村	猪野謙二	昭29	四、五〇
48	島崎藤村 写真作家伝叢書	田中宇一郎	昭30	三、五〇
49	藤村研究 藤村全集別巻	川副国基	昭40	八、五〇〇
50	虚子俳話録	瀬沼茂樹編	昭46	一、五〇〇
51	高山樗牛 其の人と作品	永杉喜輔	昭39	二、八〇〇
52	高山樗牛 其の生涯と思想	赤星水竹居	昭24	四、〇〇〇
53	高山樗牛と日蓮上人	伊藤信吉	昭41	一、八〇〇
54	高山樗牛と文学	姉崎正治	昭18	三、五〇
55	高山樗牛	高須芳次郎	昭2	三、五〇
56	太宰治研究	秋山正香	昭32	四、五〇
57	太宰治研究	亀井勝一郎編	昭31	八、五〇
58	太宰治その人と	小山 清編	昭36	三、五〇
59	太宰治の魅力	長尾 良	昭40	四、五〇
60	桜桃の記	伊馬春都	昭41	三、五〇
61	山崎富栄の生涯	相馬正一	昭42	三、八〇〇
62	若き日の太宰治	森安理文編	昭43	六、〇〇〇
63	太宰治の研究	谷崎重久	昭44	八、〇〇〇
64	太宰治との七年間	堀 松久	昭42	一、五〇〇
65	倚松庵の夢	柳田 泉	昭35	三、五〇
66	若き坪内逍遙	德富健次郎	昭10	二、〇〇〇
67	書簡十年	斎藤市花	昭18	六、八〇
68	家庭に活く徳富蘇峰夫人	秋庭太郎	昭46	四、〇〇〇
69	考証永井荷風	柞木田竜善	昭47	三、八〇〇
70	中里介山伝	平輪光三	昭50	八、〇〇〇
71	長塚節 生活と作品			
72	漱石漢詩研究	和田利男	昭15	七、〇〇〇
73	漱石と天去私	岡崎義恵	昭18	七、五〇〇
74	漱石と多佳女	小林学俊	昭30	八、五〇〇
75	夏目漱石必携	古田精一編	昭42	三、八〇〇</



国周筆 明治座中幕 武松虎狩 市川団十郎 明29年 ¥30,000



国周筆 名古屋山三 助高屋高助 明12年 ¥25,000



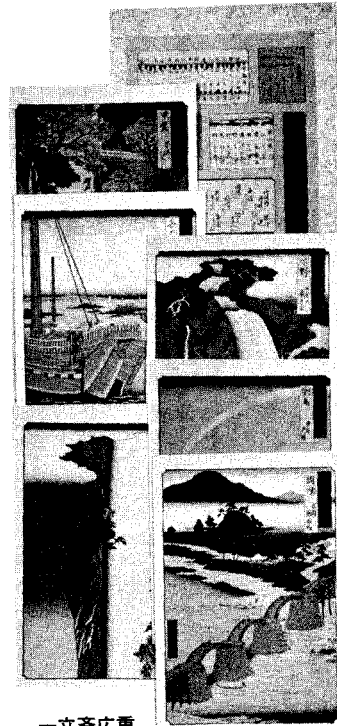
周重筆 木村長門守 尾上菊五郎 明13 ¥25,000



国周筆 島千鳥月の白浪 尾上菊五郎 明23 ¥30,000

大書堂

〒604 京都市中京区寺町通錦上ル
電話 (075) 221-0685
振替 京都 3165



一立斎広重
六十余州名勝図会 大正7年
題箋共 69枚揃 ¥450,000



可憐無声 花草工虫冊
白石、瀨生、阿芝、瑛也、他
中国水墨画帳 木版 12枚 ¥65,000

福 田 屋 書 店

電話 (〇七五) 七八一—三二一六

〒606 京都市左京区田中里ノ前町55

- 1 石門心学関係図書及資料 三冊 昭7 二、五〇〇
2 本草通串證図 (日本古典全集) 三冊 昭12 二、〇〇〇
3 特殊部落研究号 民族と歴史増刊 昭8 四、〇〇〇
4 因伯人名録 二六〇年 鳥取図書館⑤ 昭9 一、五〇〇
5 贈徒五位坪田翠山翁伝 (松澤家) 山口華城 昭7 二、五〇〇
6 日本香料史 山田憲太郎 小川香料時報 昭23 二、八〇〇
7 からの 解説共 (凶荒食) 米沢市役所 昭15 二、〇〇〇
8 志摩の姫女 岩田準一 昭14 二、〇〇〇
9 大村益次郎遺徳顕彰会記念誌 高梨光司 昭17 二、〇〇〇
10 (英文) 日葡協会記念誌 一九四〇版 昭10 二、〇〇〇
11 シーボルト記念号 日独文化講演集⑨ 昭10 二、〇〇〇
12 京都府立医学専門学校沿革略史 昭41 四、〇〇〇
13 済生会大阪府中津病院二五十年史 昭16 二、五〇〇
14 衛生大観 大阪府衛生組合聯合会 昭10 二、〇〇〇
15 医学博士録 昭12 二、〇〇〇
16 林森太郎文庫入札目録 昭14 二、〇〇〇
17 倍因氏倫理学全六冊 添田寿一 訳大成館 昭23 二、〇〇〇
18 家庭之鏡 家憲と家訓 確水龜太 昭12 二、〇〇〇
19 写真百年記念号 アサヒグラフ大14、12月号 昭12 二、〇〇〇
20 日本の工業 アサヒグラフ 昭4、11月臨時増刊 昭4 二、〇〇〇
21 開国文化大観 朝日新聞社 昭4 二、〇〇〇
22 日英商業雑誌 109 113 117号 四冊 昭23 二、五〇〇
23 日本婚礼式 上中下 風俗画報増刊 昭29 二、〇〇〇
24 聖武京師名所案内図会 銅版 石田旭山 昭28 四、五〇〇
25 京都明細新図 銅版 福井源次郎刊 昭28 三、五〇〇
26 京都市実地測量地図 銅版 松田尚友堂 昭35 三、五〇〇
27 京阪神の北門としての舞鶴港 附京府 昭7 二、〇〇〇
28 舞鶴宮津新舞鶴港 地図三葉 丹後港湾協会 昭7 二、〇〇〇
29 雑華厳浄 東大寺建立 会津八一他 雑草の園社 昭18 二、五〇〇
30 西遊記 田中英光 世界名著物語文庫 昭22 二、五〇〇
31 (漱石著作縮刷版) 各冊箱入美本 昭22 二、五〇〇
32 吾輩は猫である (大倉、大9、64版) 三四郎 (春陽、大8、8版) 虞美人草 (春陽、大13、38版) こゝろ (岩波、大10、38版) 様虚集 (大倉、大10、7版)

京 極 書 房

電話 (〇七五) 三二一—五五〇

〒604 京都市中京区壬生下溝町七一
(仏光寺通西新道東入)

- 1 先史世界への熱情 シュリマン自伝 村田数之亮 昭18 一、五〇〇
2 アレグロ死海の書 北沢義弘訳 昭32 八、〇〇〇
3 奈良県金石文年表 土井 実 昭38 六、〇〇〇
4 先学遺文 本庄栄治郎 昭46 二、五〇〇
5 史蹟論考 景山春樹 昭40 四、五〇〇
6 石にたづねる 沢野井信夫 昭33 三、〇〇〇
7 ふるさとと仏教美術 限定 後藤 利光 昭38 六、〇〇〇
8 古仏の微笑 カバー美 野間 清六 昭23 二、五〇〇
9 大分市周辺磨崖石仏の研究 昭44 一、五〇〇
10 足利智光寺址の研究 前沢 輝政 昭42 七、五〇〇
11 秦野下大槻 昭49 五、〇〇〇
12 角海浜総合調査報告書 昭50 四、〇〇〇
13 下高田遺跡 昭52 二、〇〇〇
14 日間賀島の古蹟 南知多町教育委員会 昭54 三、〇〇〇
15 小原池古窯址群 小原池団地遺跡調査団 昭54 二、五〇〇
16 清水山古窯址群 常滑市文化調査報告 昭55 二、五〇〇
17 松瀬古窯址群 昭56 二、八〇〇
18 高坂古窯址群 昭56 二、八〇〇
19 瀬戸大橋に伴う 昭56 六、〇〇〇
20 伯耆国庁跡発掘調査概報第4次 昭51 二、五〇〇
21 日本外史字典 高橋喜八郎編 昭39 二、〇〇〇
22 歴史の断層と系譜 附解説の表情と心 中村敏勝 昭41 三冊 四、五〇〇
23 祖父の足跡 正統二冊 平泉 澄 昭39 一、八〇〇
24 世界文化と古代文化 阿部 次郎 昭25 二、〇〇〇
25 日本民族と古代史観 藤沢秀三郎 昭28 一、八〇〇
26 庵美に生きる日本古代文化 金久 正 昭38 四、〇〇〇
27 難波古道の研究 竹山 真次 昭10 二、〇〇〇
28 公家文化の研究 小島小五郎 昭17 四、五〇〇
29 いへるの理念と世界観 牧 健二 昭20 三、〇〇〇
30 日本家族制度史の研究 砂川 寛栄 昭14 三、〇〇〇
31 日本村落史概説 小野 武夫 昭23 二、〇〇〇
32 近世日本封建社会の史的研究 土屋喬雄 昭24 三、〇〇〇
33 日本封建制度史 伊藤多三郎 昭25 二、五〇〇

其 中 堂

電話 (〇七五) 二二二—二九七一
振替 京都 二二五 三七八

〒604 京都市中京区寺町通三条北

- 1 仏像事典 久野 健 昭58 七、八〇〇
2 仏像図典 佐和隆研 昭58 二、三〇〇
3 仏像をたずねて 南日義妙 昭58 三、五〇〇
4 仏像の印相をたずねて 秋山正美 昭58 四、七〇〇
5 詳説 仏像の持ちものと装飾 秋山正美 昭59 三、八〇〇
6 仏像の再発見—鑑定への道 西村公朝 昭59 四、八〇〇
7 仏像案内 佐和隆研 昭58 一、八〇〇
8 仏像ガイド 三上三樹夫 昭58 一、八〇〇
9 やさしい仏像の見方 西村公朝 昭58 一、二〇〇
10 新装 仏教美術用語集 石田茂作 昭59 二、八〇〇
11 密教美術論 中野玄三 昭59 二、〇〇〇
12 密教美術 難波淳郎 昭59 二、七〇〇
13 写仏のすすめ 江戶徳川時代の仏教美術 昭59 一、五〇〇
14 続・写仏のすすめ 弘法大師空海と美術 昭58 二、〇〇〇
15 季刊仏画1 浄土への憧れと美術 昭59 一、五〇〇
16 季刊仏画2 地獄絵 昭58 二、〇〇〇
17 季刊仏画3 曼荼羅の世界 昭59 二、〇〇〇
18 季刊仏画4 石塚青我 昭58 二、八〇〇
19 仏画5 徳山暉純 昭54 二、八〇〇
20 梵字 般若心経 南日義妙 昭56 三、五〇〇
21 梵字 般若心経 南日義妙 昭56 三、五〇〇
22 梵字 般若心経 南日義妙 昭56 三、五〇〇
23 梵字 般若心経 南日義妙 昭56 三、五〇〇
24 仏事 (儀式) 全書 藤井正雄 昭52 二、八〇〇
25 仏具辞典 清水 乞 昭60 二、八〇〇
26 神・仏の戸籍しらべ 脇坂景城 昭59 九、〇〇
27 写経入門 田中槐堂 昭59 一、七〇〇
28 写経のすすめ 岸本磯一 昭58 三、〇〇〇
29 写経の法話 岸本磯一 昭59 三、〇〇〇
30 集王義之書 比田井天来 昭59 二、五〇〇
31 良寛和尚書 般若心経 昭57 二、六〇〇

千 600 京都市下京区仏光寺通東洞院角

シルヴァン書房

電話(〇七五) 三四一七八七九三
振替 京都 一一七九三八

- 1 (英)動物地理学地図 パーソロムニー 王立 一九二二 三〇〇〇
2 (英)シベリア鉄道 鉱山地図、メッツ 大判 一九三三 四〇〇〇
3 (英)東洋地図 E・パンス (I)(II)各 一九三〇 各二〇〇〇
4 (英)我々の商船隊組織 O・ビュッセル 巻18 一九三〇 二〇〇〇
5 (英)地理教科書 C・B・クラーク 一九三〇 二〇〇〇
6 (英)Geographia Antiqua 歴史地図大成 32図 一九三〇 二〇〇〇
7 (英)初期地図 T・キャンベル 68色図大型 一九三〇 一七〇〇〇
8 (英)初期地図 R・プトマン 76色図大型 一九三〇 一七〇〇〇
9 (英)初期地図 S・コーネル 19図 一九三〇 一七〇〇〇
10 (英)初期地図 M・パロン 極美草装・天金 一九三〇 一七〇〇〇
11 (英)Winged Thoughts 102頁 一九三〇 一七〇〇〇
12 (英)The Book of the Lover's Enchiridion 21×13 一九三〇 一七〇〇〇
13 (英)Gray's Elegy ジョーンズ 多色石版 一九三〇 一七〇〇〇
14 (英)ダウイド聖詩篇 O・ジョーンズ 彩画100図 一九三〇 一七〇〇〇
15 (英)イクトリア朝期、パピエ・マッシュ装幀 N・D 一九三〇 一七〇〇〇
16 (英)イクトリア朝期の写本と細密インクナフ 5色図 51白黒図、35×25 一九三〇 一七〇〇〇
17 (英)カッティネン古写本の細密画 大型10冊 一九三〇 一七〇〇〇
18 (英)イクトリア朝期の写本と細密インクナフ 5色図 51白黒図、35×25 一九三〇 一七〇〇〇
19 (英)カッティネン古写本の細密画 大型10冊 一九三〇 一七〇〇〇
20 (英)カッティネン古写本の細密画 大型10冊 一九三〇 一七〇〇〇
21 (英)カッティネン古写本の細密画 大型10冊 一九三〇 一七〇〇〇
22 (英)カッティネン古写本の細密画 大型10冊 一九三〇 一七〇〇〇
23 (英)カッティネン古写本の細密画 大型10冊 一九三〇 一七〇〇〇
- 24 (英)動物地理学地図 パーソロムニー 王立 一九二二 三〇〇〇
25 (英)シベリア鉄道 鉱山地図、メッツ 大判 一九三三 四〇〇〇
26 (英)東洋地図 E・パンス (I)(II)各 一九三〇 各二〇〇〇
27 (英)我々の商船隊組織 O・ビュッセル 巻18 一九三〇 二〇〇〇
28 (英)地理教科書 C・B・クラーク 一九三〇 二〇〇〇
29 (英)Geographia Antiqua 歴史地図大成 32図 一九三〇 二〇〇〇
30 (英)初期地図 T・キャンベル 68色図大型 一九三〇 一七〇〇〇
31 (英)初期地図 R・プトマン 76色図大型 一九三〇 一七〇〇〇
32 (英)初期地図 S・コーネル 19図 一九三〇 一七〇〇〇
33 (英)初期地図 M・パロン 極美草装・天金 一九三〇 一七〇〇〇
34 (英)Winged Thoughts 102頁 一九三〇 一七〇〇〇
35 (英)The Book of the Lover's Enchiridion 21×13 一九三〇 一七〇〇〇
36 (英)Gray's Elegy ジョーンズ 多色石版 一九三〇 一七〇〇〇
37 (英)ダウイド聖詩篇 O・ジョーンズ 彩画100図 一九三〇 一七〇〇〇
38 (英)イクトリア朝期、パピエ・マッシュ装幀 N・D 一九三〇 一七〇〇〇
39 (英)イクトリア朝期の写本と細密インクナフ 5色図 51白黒図、35×25 一九三〇 一七〇〇〇
40 (英)カッティネン古写本の細密画 大型10冊 一九三〇 一七〇〇〇
41 (英)カッティネン古写本の細密画 大型10冊 一九三〇 一七〇〇〇
42 (英)カッティネン古写本の細密画 大型10冊 一九三〇 一七〇〇〇
43 (英)カッティネン古写本の細密画 大型10冊 一九三〇 一七〇〇〇
44 (英)カッティネン古写本の細密画 大型10冊 一九三〇 一七〇〇〇
45 (英)カッティネン古写本の細密画 大型10冊 一九三〇 一七〇〇〇
46 (英)カッティネン古写本の細密画 大型10冊 一九三〇 一七〇〇〇
47 (英)カッティネン古写本の細密画 大型10冊 一九三〇 一七〇〇〇
48 (英)カッティネン古写本の細密画 大型10冊 一九三〇 一七〇〇〇
- 49 (英)日本の輸出漆器 M・ホイヤー著 一九三〇 一五〇〇〇
50 (英)周王朝の古代中国青銅 W・ホイヤー著 一九三〇 一五〇〇〇
51 (英)朝鮮芸術図史 E・マックリン 31頁 一九三〇 一五〇〇〇
52 (英)仏陀 生涯と伝説の図史 H・スミス序 271頁 129色図 30×24 一九三〇 一五〇〇〇
53 (英)仏教の楽園 150図 P・バル 370部限 一九三〇 一五〇〇〇
54 (英)仏教芸術 M・姉崎 32×24 47図 一九三〇 一五〇〇〇
55 (英)アジア芸術 H・ウィーゼル 511頁 一九三〇 一五〇〇〇
56 (英)古代ホーラン A・スタイン 再版 一九三〇 一五〇〇〇
57 (英)インド芸術家と職人的技巧 E・パプナニ 一九三〇 一五〇〇〇
58 (英)J・ウェッジウッドの生涯 E・メテヤード 一九三〇 一五〇〇〇
59 (英)18世紀マイセン磁器 C・アルビカー 一九三〇 一五〇〇〇
60 (英)英国磁器の装飾 S・フィッシャー 一九三〇 一五〇〇〇
61 (英)中国陶器実用本 H・エバーライン 325頁 一九三〇 一五〇〇〇
62 (英)セーヴル磁器重要収集品目録 E・ホドキンズ 122頁 一九三〇 一五〇〇〇
63 (英)新陶器ギャラリー W・シアファア 2冊 一九三〇 一五〇〇〇
64 (英)実用中国陶磁器 エバライラムスデール共著 一九三〇 一五〇〇〇
65 (英)マール紙・歴史と書誌 P・J・イストン著 190頁 補図多 一九三〇 一五〇〇〇
66 (英)バーナード・リーチ 浜田庄司編 朝日新聞 一九三〇 一五〇〇〇
67 (英)日英展覧会一九一〇年 政府刊行カタログ 280頁 初版 一九三〇 一五〇〇〇
68 戦略原理図 C・Bertram 軍隊指揮研究 四ツ折大地図32枚 一九三〇 一五〇〇〇
69 探検家の地図 R・A・スケルトン 335頁 219図 一九三〇 一五〇〇〇
70 フイレントツェの美術館 小学館刊 1930 一五〇〇〇
71 中国銅器 限定二千部 全6冊 一九三〇 一五〇〇〇
72 (英)磁器 収集・作画・研究 G・レーナート著 152頁 260図 一九三〇 一五〇〇〇
73 (英)水流るる如く E・バーンズ著 189頁 色図多 一九三〇 一五〇〇〇

〒606 京都市左京区北白川久保田町64の5
社会科学系と
学術書専門
外山書店

電話(〇七五) 七〇一六六二七
振替 京都 九一六三八四

- 1 橋樑著作集 全3冊 勁草書房 昭41 五、〇〇〇
- 2 中国白書 アメリカ国務省 昭24 五、〇〇〇
- 3 サ聯邦と支那満州の共産運動 大阪対支経済聯盟編 昭9 一八、〇〇〇
- 4 中国共産党史資料集 全12巻 昭50 五、〇〇〇
- 5 中国共産党第六次全国代表大会議決案 購買版・中国文 正統 一九二八年 昭50 一八、〇〇〇
- 6 中国法政史考証 内藤乾吉 昭38 三、〇〇〇
- 7 近世支那外交史 稲坂 昭4 二、〇〇〇
- 8 王孝通・支那商業史 平田泰吉訳 昭14 二、〇〇〇
- 9 支那に於ける鉄道利権と列強の政策 山本修平 昭15 三、〇〇〇
- 10 北支農村概況調査報告 南満鉄調査部 昭15 三、〇〇〇
- 11 康徳年度農村実態調査 全2冊 昭15 三、〇〇〇
- 12 戸別調査部(浜江省) 国務院 昭15 三、〇〇〇
- 13 内外地農業生産力ニ関スル基礎資料 日満農政研究会東京事務局 昭16 三、〇〇〇
- 14 大平洋問題調査会編 中国農村問題 杉本俊朗訳 昭15 三、〇〇〇
- 15 中国農業史研究 増補版 天野元之助 昭15 三、〇〇〇
- 16 英国ノ対支文化事業(未定稿) 東亜研究所 昭14 二、〇〇〇
- 17 満鉄調査部綜合調査報告集 野間清他編 昭57 一五、〇〇〇
- 18 新羅史 福田芳之昭 昭2 八、〇〇〇
- 19 戦後資料日中関係 石川忠雄他編 昭45 八、〇〇〇
- 20 朝鮮史料研究 内藤集輔 昭36 三、〇〇〇
- 21 朝鮮革命博物館 上下 金相雨編 昭33 二、〇〇〇
- 22 朝鮮殖産銀行と朝鮮の産業 同館 昭49 五、〇〇〇
- 23 朝鮮科学史 同行 昭19 一五、〇〇〇
- 24 朝鮮総督府事務試験場下五周年記念記 上下 同場 昭6 二八、〇〇〇
- 25 茶山鄭若瀟・朝鮮博物志 朝鮮研究会 昭6 二五、〇〇〇
- 26 新朝鮮及新満州 朝鮮古書刊行会 昭6 二八、〇〇〇
- 27 「在日朝鮮人とその教育」 資料集Ⅰ 昭45 二、〇〇〇
- 28 日本教育学会

〒606 京都市左京区田中大久保町22

山崎書店

電話(〇七五) 七一七二四八
振替 京都 〇一八三六

- 1 美術書大型本 京の花鳥画 明治京都派の画家たち 昭51 三、〇〇〇
- 2 景年花鳥画譜 全四冊 定十万 有秀堂 昭52 五、〇〇〇
- 3 景年花鳥画譜 春の巻 彩色木版 芸艸堂 昭25 六、〇〇〇
- 4 模範花鳥画譜 全二冊 昭50 六、〇〇〇
- 5 放菴花鳥手控 全二冊 昭58 一四、〇〇〇
- 6 非水百花譜 杉浦非水 春陽堂 昭40 六、〇〇〇
- 7 志ぼりの図案 杉浦非水監修 30枚の内1枚欠 計189 初刷 昭50 六、〇〇〇
- 8 大野傲嵩の花 限八〇〇 フリント 昭55 六、〇〇〇
- 9 花が私を四季の華にシラズ 昭48 三、〇〇〇
- 10 中国の染織 西村兵部編 解説 全二冊 昭48 三、〇〇〇
- 11 西陣織物館秘蔵 フランス装飾製全二冊 昭48 三、〇〇〇
- 12 染彩 皆川月華作品集 定二万光琳社出版 昭48 三、〇〇〇
- 13 朱軍山の世界 花の叙情 定八〇〇 真乃美 昭56 八、〇〇〇
- 14 タイ国古代染織 光琳社 昭40 一五、〇〇〇
- 15 伊勢物語色紙歌留多帖 芸艸堂 昭48 一五、〇〇〇
- 16 宗達光琳派画集 上下 光琳社出版 昭41 一五、〇〇〇
- 17 創作図案集 和田三造 全96図の内1枚欠 昭14 一八、〇〇〇
- 18 京都民家譜 複製 毎日新聞社京都支局編 昭55 二、〇〇〇
- 19 友禪 森口華弘遺筆 複製 求龍求龍堂 昭51 二、〇〇〇
- 20 日本新八景 川瀬巴水遺作 複製 昭51 二、〇〇〇
- 21 彩色木版10枚入り 浮世絵版画刊行会 昭39 三、〇〇〇
- 22 18世紀フランス織物ウエジユール解説美術出版社 昭50 一五、〇〇〇
- 23 装幀図案集 津田青楓 定四、〇〇〇 芸艸堂 昭50 一五、〇〇〇
- 24 芝田米三画集 定二五、〇〇〇 求龍堂 昭55 一八、〇〇〇
- 25 画集 裸婦 明治から現代までの名作 昭54 一八、〇〇〇
- 26 素描 ロダン/ブールデル/マイヨール 求龍堂 昭48 一八、〇〇〇
- 27 高田博厚解説 岩崎美術社 昭50 一八、〇〇〇
- 28 岩波書店

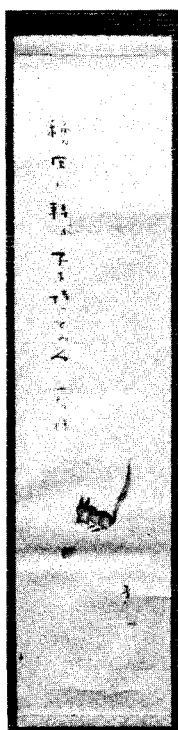
〒600 京都市下京区七条通堀川角

谷書店

電話(〇七五) 三六一七六九五
振替 京都 一一一七九

- 1 仏教大辞典 望月信亨 十冊揃 昭49 六、〇〇〇
- 2 仏教語大辞典 中村 元 三冊揃 昭50 五、〇〇〇
- 3 仏教大辞典 織田得能 昭55 六、〇〇〇
- 4 仏教大辞典 竜谷大学 三冊揃 昭11 四、〇〇〇
- 5 仏教大辞典 七冊揃 昭53 六、〇〇〇
- 6 サンスクリット語大辞典 七冊揃 昭51 一〇、〇〇〇
- 7 BIBLIOTHECA BUDDHICA 梵一独 七冊揃 昭52 五、〇〇〇
- 8 マハーバサツ(大事) スナール校訂 三冊揃 昭54 五、〇〇〇
- 9 パーニニの文法 ベイトリック 二冊揃 昭52 一七、〇〇〇
- 10 仏教汎論 宇井伯寿 昭45 六、〇〇〇
- 11 仏教概論 福原亮蔵 昭40 三、〇〇〇
- 12 仏教概論 高木俊一 昭40 三、〇〇〇
- 13 仏教概論 齊藤唯信 昭7 六、〇〇〇
- 14 仏教哲学新論 紹慶密応 昭41 六、〇〇〇
- 15 印度仏教の研究 牛島文倉 昭12 四、〇〇〇
- 16 蔵英辞典 縮刷版 明石恵達 昭58 八、〇〇〇
- 17 新西蔵語学 楠 基道 昭12 一五、〇〇〇
- 18 西蔵語学 長尾雅人 昭35 一五、〇〇〇
- 19 西蔵仏教研究 矢崎正見 昭49 六、〇〇〇
- 20 チベット仏教史 東洋学術研究21/2 昭54 二、〇〇〇
- 21 チベット密教の研究 インド・チベット研究会 昭57 一八、〇〇〇
- 22 チベット密教の研究 インド・チベット研究会 昭57 一八、〇〇〇
- 23 西蔵絵巻集成 トウチンチヤンドラ編 昭56 二、〇〇〇
- 24 西蔵学文献史 ロケシニチヤンドラ編 昭56 二、〇〇〇
- 25 古代チベット史研究 佐藤 長 二冊揃 昭52 三、〇〇〇
- 26 チベットの文化 RASTAN 山口・定方訳 昭48 八、〇〇〇
- 27 チベット仏教美術 藤田弘基写真集 昭59 一五、〇〇〇
- 28 チベット壁画 本生譚壁画選 人民美術出版 昭57 一五、〇〇〇
- 29 チベット密教壁画 井上隆雄写真 松永他 昭57 一五、〇〇〇
- 30 チベット 中国人民美術出版社 昭57 一五、〇〇〇
- 31 チベット 中国人民美術出版社 昭57 一五、〇〇〇
- 32 西蔵 西蔵文化の新研究 青木文教 昭55 三、〇〇〇

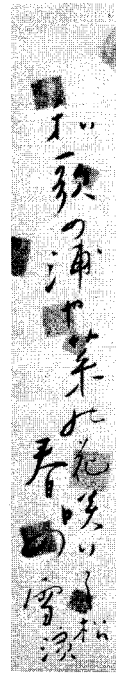
文藻堂

〒604 京都市中京区新烏丸通竹屋町上ル
電話(075)231-1914 振替 京都 8-6151 松瀬青々 小松自画賛色紙 絹本彩色
此ちきり夫婦ときは茂り哉 極美三五、〇〇〇円2 津田青楓 紫陽花自画賛色紙 彩色
藤々元々歩々之 二五、〇〇〇円3 山口簪子 瓜の句幅 自題共箱 裂装紙本(28×127)
瓜實ふ太陽の熱さめざるを 簪子印 美 一三〇、〇〇〇円4 中塚一碧楼賛 黒住青鸞画 栗鼠画賛幅 紙装紙本(27×117)
穂田に転ぶ子を持つてゐる一碧楼 青鸞印(淡彩) 桐箱入 八〇、〇〇〇円5 高浜虚子 短冊 梅雨空を映して暗し隅田川
美 七五、〇〇〇円

6 河東碧梧桐 短冊 さくら咲きそめし下の人による中にある相本 美 二〇、〇〇〇円



7 岡本松浜 短冊 和歌の浦や菜の花咲いて春の雪 美 一〇、〇〇〇円



8 青木月斗 短冊 炭焼に奥下板をたづねけり 美 一五、〇〇〇円



9 高野素十 短冊 山桜ありこの道を疑はず(朱地) 美 二五、〇〇〇円



10 吉岡禅寺洞 短冊 貝のゆめ気船ましろく南へ 美 一〇、〇〇〇円



11 高岡智照尼 短冊 東山三十六峰四方の春 美 五、〇〇〇円



〒602 京都市上京区大宮通下水る

家永町七六一

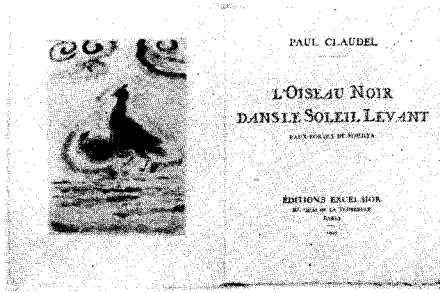
文 庫 堂

電話(〇七五) 八二二一七二五九
振替 京都 二一四二五七九

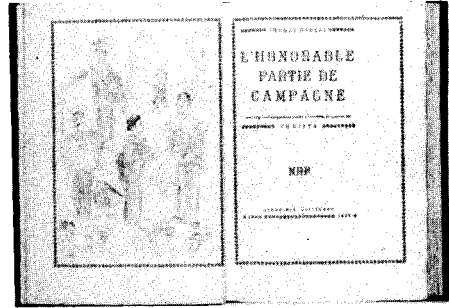
32	1	フンボルト	泉井久之助	西哲叢書	昭22	三、〇〇〇
31	2	ヘーゲル	高山岩男	〃	昭22	三、〇〇〇
30	3	フョイエルバツハ	伊達四郎	〃	昭22	三、〇〇〇
29	4	フツセル	下程勇吉	〃	昭23	三、〇〇〇
28	5	ルソー	島 芳夫	〃	昭11	三、〇〇〇
27	6	アリストテレス	高橋誠一郎	〃	昭18	一、〇〇〇
26	7	アリストテレス研究	藤井義夫	〃	昭16	七、〇〇〇
25	8	カントと現代の哲学	桑木麻翼	〃	昭16	三、〇〇〇
24	9	カント研究	宮本和吉	〃	昭17	三、〇〇〇
23	10	シヨベンハウエル	松永材	〃	昭19	二、五〇〇
22	11	アラ幸福論	石川湧訳	〃	昭23	一、〇〇〇
21	12	ヘーゲル歴史哲学	田村実	〃	昭22	八、〇〇〇
20	13	キェルケゴールの実存哲学	大小島真二	〃	昭22	一、〇〇〇
19	14	存在論の基礎附け	ハルトマン	〃	昭17	八、五〇〇
18	15	ニイチュアラツストラ	立沢剛文庫	〃	昭16	一、五〇〇
17	16	ニイチュの歴史哲学	シュレーゲル	〃	昭18	一、八〇〇
16	17	ニイチュ哲学	A・ミユゲ長谷川玖一訳	〃	昭18	一、八〇〇
15	18	現象学序説	山内得立	〃	昭16	三、八〇〇
14	19	若きゲテ研究	改訂版 木村謹治	〃	昭13	三、八〇〇
13	20	ゲテ ジムメル	桜井書店	〃	昭21	二、〇〇〇
12	21	ゲテ序論	奥津彦重	〃	昭18	二、〇〇〇
11	22	完成期のゲテ	木村謹治	〃	昭22	二、〇〇〇
10	23	ブルクジェ前後	太宰施門	〃	昭22	二、〇〇〇
9	24	フランス黎明期の思想家	宮原晃一訳	〃	昭17	二、〇〇〇
8	25	来るべき自由社会	第一部	〃	昭24	一、〇〇〇
7	26	聖人たちの横顔	エルストロツ	〃	昭22	一、〇〇〇
6	27	思想問題の展望と批判	思想問題研究所編	〃	昭6	一、八〇〇
5	28	働くものから見るものへ	〃	〃	昭16	一、八〇〇
4	29	自覚に於ける直観と反省	〃	〃	昭15	一、五〇〇
3	30	哲学論文集 第二	〃	〃	昭16	一、五〇〇
2	31	哲学論文集 第三	〃	〃	昭15	一、五〇〇

69	32	哲学以前	出隆	昭12	一、〇〇〇
68	33	続西田哲学	高山岩男	昭15	一、〇〇〇
67	34	現代哲学概論	金子馬治	昭17	一、〇〇〇
66	35	道理への意志	天野貞祐	昭15	一、〇〇〇
65	36	民族の哲学	高坂正顕	昭17	一、〇〇〇
64	37	歴史の国家の理念	鈴木成高	昭17	一、五〇〇
63	38	日本近代思潮	高岡宣之	昭16	一、二〇〇
62	39	唯物弁証法読本	大森義太郎	昭24	一、〇〇〇
61	40	論理学	全15冊	昭15	一、〇〇〇
60	41	日本倫理史要	湯本武比古・石川岩吉	昭14	一、五〇〇
59	42	行の仏教	大倉精神文化研究所	昭14	一、五〇〇
58	43	社会科学における宗教の取扱い方	国学院大学宗教研究室編	昭26	一、五〇〇
57	44	日本精神の哲学的解釈	高階順治	昭17	一、〇〇〇
56	45	祝祭日の本義	小林巖雄	昭18	一、五〇〇
55	46	河上先生からの手紙	菅原昌人	昭21	一、〇〇〇
54	47	二宮尊徳の現代的意義	下程勇吉	昭20	一、〇〇〇
53	48	預言者本間俊平	泥谷良次郎修撰	昭10	一、〇〇〇
52	49	平和のための教育	H・リード	昭5	一、〇〇〇
51	50	近代国語教育史	高森邦明	昭54	五、〇〇〇
50	51	世界大思想全集	支那思想篇	昭6	一、〇〇〇
49	52	支那哲学概説	高田真次	昭18	一、〇〇〇
48	53	中国の仙人	村上嘉実	昭31	一、五〇〇
47	54	現代美学の問題	大西克礼	昭2	三、五〇〇
46	55	美の講義	金原省吾	昭17	三、〇〇〇
45	56	美学及芸術史研究	大塚博士還歴記念	昭6	一、五〇〇
44	57	社会学的芸術	ギユイヨ	昭14	六、〇〇〇
43	58	デイルタイ近世美学史	徳永郁介訳	昭13	四、五〇〇
42	59	メシヤの美の原理	相良徳三訳	昭9	二、〇〇〇
41	60	芸術論	武田武志	昭23	一、五〇〇
40	61	芸術論集	蔵原惟人	昭21	一、五〇〇
39	62	美術研究 第一輯	東京帝大美学談話会	昭4	四、五〇〇
38	63	前田寛治画論	外山卯三郎編	昭21	三、八〇〇
37	64	美的典型	川路柳虹	昭18	二、〇〇〇
36	65	近代芸術論序説	本間久雄	昭14	二、〇〇〇
35	66	美学	山際 靖	昭17	三、〇〇〇

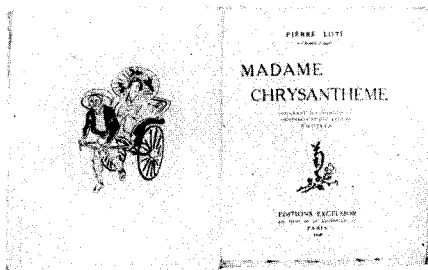
108	70	東洋美と西洋美	鼓常良	昭18	二、五〇〇
107	71	新日本美術論	秋山謙蔵	昭18	二、五〇〇
106	72	美術を語る	カパー 武者小路実篤	昭18	一、五〇〇
105	73	唯物史観科学思想史	クラウザー	昭27	四、〇〇〇
104	74	科学の起源	松本道夫訳	昭13	二、〇〇〇
103	75	科学の歴史	オットー・ヨハンセン	昭19	四、五〇〇
102	76	科学史	吉岡修一郎	昭17	一、八〇〇
101	77	ルナール博物誌	岸田国士訳	昭27	一、〇〇〇
100	78	科学文化の基調	管井準一	昭17	一、〇〇〇
99	79	ヒフの科学	中村敏郎	昭19	一、〇〇〇
98	80	慶泉と尿尿の科学	川畑愛義	昭8	一、〇〇〇
97	81	航空医学の黎明	立神正夫	昭19	一、〇〇〇
96	82	航空指導室	RRラリニエ	昭19	一、〇〇〇
95	83	空襲救護	帝国女子医専報国団編	昭26	一、〇〇〇
94	84	変革された医薬制度	医学通信編集部編	昭18	一、〇〇〇
93	85	医者の解剖するソ連	富沢一夫	昭23	一、〇〇〇
92	86	防空救護の指針	東部軍軍医部編	昭18	一、〇〇〇
91	87	家庭防疫衛生必携	南崎雄七	昭9	一、〇〇〇
90	88	正しき育児法	母親読本	昭11	一、〇〇〇
89	89	精神衛生	三宅敏一	昭10	一、〇〇〇
88	90	衣食住の衛生	藤原九十郎	昭17	一、〇〇〇
87	91	増進呼吸哲学	清水正光	昭8	二、〇〇〇
86	92	一日の保健生活の営み方	南崎雄七	昭22	二、五〇〇
85	93	薬用植物の新療法	薬草研究会	昭18	一、〇〇〇
84	94	長寿の科学	竹内大真	昭22	一、〇〇〇
83	95	家庭薬読本	宮崎三郎	昭26	一、〇〇〇
82	96	日本人の人間の遺伝	駒井卓	昭15	一、〇〇〇
81	97	結核全治の近道とその予防法	ラジオ新書	昭16	一、〇〇〇
80	98	病気の正体	緒方富雄	昭21	一、〇〇〇
79	99	生体の科学	井上清恒	昭13	一、〇〇〇
78	100	健康新道	式場隆三郎	昭12	一、〇〇〇
77	101	絶対安眠法	式場隆三郎	昭13	一、〇〇〇
76	102	結婚の教養	式場隆三郎	昭16	一、〇〇〇
75	103	性教育の実際	星野鉄男	昭9	一、〇〇〇
74	104	誤診百態	林良材	昭30	一、〇〇〇
73	105	還歴の町医	林良材	昭27	一、〇〇〇



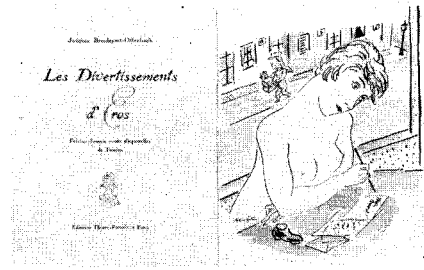
日出する国の黒鳥 クローデル
藤田嗣治版画入 580,000円



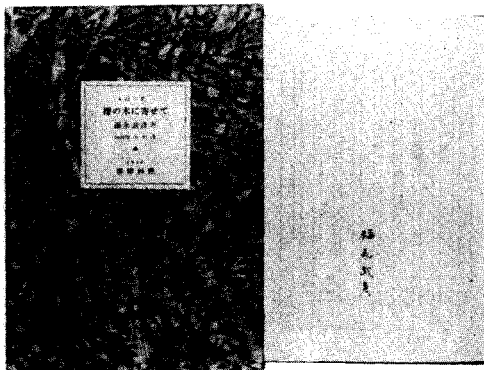
お遠足 ルカ 藤田嗣治版画入 580,000円



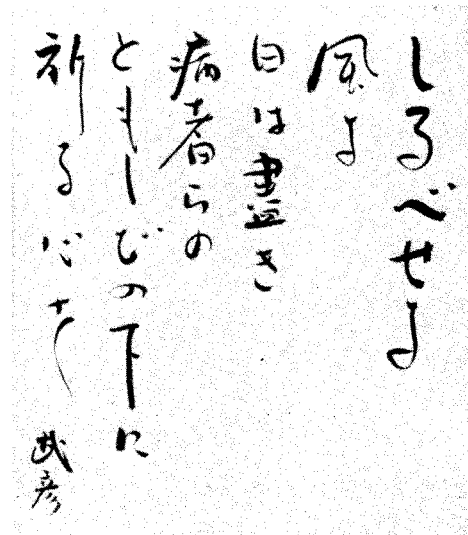
お菊さん ロチ 藤田嗣治版画入 280,000円



エロスの愉しみ 藤田嗣治版画入 350,000円



詩文集 樺の木に寄せて 限定85部
福永武彦著 木村茂銅版画サイン入 100,000円



福永武彦色紙 300,000円

古書研大即売会出品の一部をご紹介します。

この他、洋書・和書の特選品多数出品。

厚冊合同目録 ¥500.-

それよりもなによりも会場へどうぞ!

〒530 大阪市北区芝田1丁目6番2号
阪急古書のまち

(株) 臨川書店 大阪店

電話 (06) 374-1300
振替 京都 7-800

普及版
法名戒名大字典
6800円
釈慶嚴編

みたまを鎮める
供養文のひびき!

カセットテープ付
天台宗諷誦・歎徳文集
吹込 天納傳中 (叡山学院教授)
真言宗諷誦・表白文集
吹込 新井弘順 (上野学園日本音楽資料室研究員)
浄土宗歎徳・表白文集
吹込 津田徳翁 (浄土宗法儀司・大本山増上寺教授)
浄土真宗本願寺派表白文集
吹込 白井誓海 (築地本願寺副輪香)
真宗大谷派歎徳・表白文集
吹込 近松暢誉 (東本願寺式務部部長)
臨済宗引導香語集
吹込 小池心叟 (臨済会会長・白山道場師家)
曹洞宗引導香語集
吹込 前川博邦 (兼王山日泰寺専門・僧堂副堂長後堂)
日蓮宗歎徳文集
吹込 早水日秀 (大本山池上本門寺・法務部執事)
各3800円

かかげえのない日本の文化遺産である和讃・御詠歌に広く親しむために恰好の全集。仏菩薩・高僧から身近なまでの約550点を集大成し、大きな活字と総ルビで読み易く編集。仏教関係者・図書館必備の書である。

仏教和讃御詠歌全集
武石彰夫編／全3巻・28500円

寺院における挨拶や手紙は、おのずと一般とは異なった趣きをする。寺院宛にせよ檀徒宛にせよ、それは儀式などの用件にことよせて、法を伝え、信仰を確認しあう好機でもある。本書は、時に格調高く、時に語りかけるように、時に文学作品のように流麗豁達な、挨拶文や手紙文を書くための儀式文例大事典である。

相馬泰全編

仏教挨拶手紙

B5判・約700頁
上製貼函入・背継表紙
28800円

文例大事典

手紙・挨拶の画期的な便利大事典!

*小社の書籍は注文制です。書店にご注文下さい。 国書刊行会 〒170 東京都豊島区巢鴨3-5-18 電話03(917)8287

主に江戸期の絵画を中心とした、若沖、蕭白、芦雪など、近世絵画を網羅した初の在米秘蔵作品集。

近世日本絵画集成

本書の特色

- 花鳥翎毛人物山水にと繰り広げられる豊富な作品群。
- 詳細な解説と、落款・印章写真を全作品に付す充実した資料。
- 英文にて、作品名・本論・作品目録を収めるワイド版。

好評発売中!

残部僅少!

二二五色を手彩色——甦える伝統色彩

譜説 日本伝統色彩考

長崎盛輝著

—その色名と色調—

内容・造本

色譜・上巻 114色
色譜・下巻 111色
解説書 約240頁
伝統色彩記載の文献年表

和洋色名対照一覧表
JISトーン別分類一覧表
JIS一般色名及び修飾語用法図
JISトーン名称図

造本・体裁

B4判定型(36.4×25.7cm)／別染布装豪華本／布装ケース入／総340頁(図版280頁・本論及解説60頁／英文本論／作品目録(和文・英文付)

■限定700部(朱筆番号入)

■定価48,000円



定価168,000円

限定330部(朱筆番号入)

マンセル色相記号図
マンセル明度彩度記号図
判型 B5判
別染袖装映込豪華愛蔵本(全2巻別巻1)

美術図書出版 京都書院 京都市中京区堀川通三条上ル 電話・075-841-9123代

図説万国博覧会史

1851—1942

吉田光邦編
〔内容目次〕総説／会場鳥瞰／会場平面図／群衆／回遊する人々／水晶宮とエッフェル塔／万国博と産業技術／パビリオン／政治と博覧会／年表／他
の演出／日本館のエキゾチズム／口絵カラー二二点・本文モノクロ二九〇点収録

大坂医師番付集成

中野操編 番付四五種（原寸及び縮小複製）／和紙使用オフセット製版印刷／別冊（索引・解説）B6判・二二〇頁／紙一五、〇〇〇円
半世紀に及ぶ中野操博士の医学史・蘭学史研究の間に蒐集した、寛政期から明治に至る医師番付を中心に現在判明している番付の全てを影印版で再現。別冊として、詳細な人名索引及び解説を付す。

中川浩文論文集—全二巻

竹取物語の国語学的研究

第一章・竹取物語の本文研究と論考・竹取物語における本文の策定／難題の構成／会話の文をめぐって／竹取物語の表現／竹取物語における和歌の質／他第二章・助詞、助動詞に関する論考／「え」の本質と用法／助動詞「が」の原初的性格について／助動詞「へ」の性格の再検討／助動詞「す」の「さす」の他

源氏物語の国語学的研究

第一章・源氏物語の表現と語法の論考・源氏物語の助詞「だ」について／源氏物語の疑問表現第二章・和歌・元輔集・紫式部集に関する論考／このしたならでゆくこ、ろかは／元輔集の歌の探定／西本願寺本・紫式部集の位置と校異他第三章・仏教文学、主として和讃に関する論考／讃阿弥陀仏偈和讃・表現考他

原田伴彦論集—全五巻

好評配本中！

都市史研究

（解説）脇田晴子

都市形態史研究

（解説）矢守一彦

〔収録論文〕中世における都市の研究／中世都市の景観／中世都市から近世都市への展開／近世都市の形成／日本封建都市論／都市発達史／中国・四国／山城国伏見街近郊図／ほか一篇
〔続刊〕都市社会史研究／部落差別史研究／文化芸能史研究

本社 京都市左京区田中関田町 2-7
〒606 (075) 751-1781

思文閣出版

支社 東京都千代田区三崎町 2-20
〒101 (03) 263-6348

京都府郷土誌叢刊〔第二期〕

■中部

南桑田郡誌

三七五頁、附図一枚・写真二七枚
（既刊）全一冊 定価六、〇〇〇円

船井郡誌

三七六頁、附図一枚
（既刊）全一冊 定価五、六〇〇円

何鹿郡誌

五六六頁、附図四枚・写真二〇枚
（既刊）全一冊 定価七、九〇〇円

天田郡志資料

（出）六八二頁、附図三枚・写真一〇枚
（四）四七〇頁、附図六枚・写真四枚
（既刊）全二冊 定価一四、五〇〇円
総発売元 福島文進堂

■北部

京都府熊野郡誌

七三四頁、附図一枚・写真七枚
（既刊）全一冊 定価九、二〇〇円
総発売元 淀 徳 商店

丹後國竹野郡誌

六七九頁、附図八枚・写真五枚
（既刊）全一冊 定価七、〇〇〇円
総発売元 淀 徳 商店

丹後國中郡誌稿

五二〇頁、附図八枚・写真五枚
（既刊）全一冊 定価七、〇〇〇円
総発売元 淀 徳 商店

丹後郷土史料集

第一輯六九二頁、附図二枚
第二輯八八六頁、附図三枚・写真一枚
全二冊 定価一六、五〇〇円

加佐郡誌

一二二頁、写真一枚
全一冊 定価四、三〇〇円
総発売元 浪江文明堂

（北部全6冊特別セット定価四二、〇〇〇円）

・各冊A5判・上製クロス装・函入
・詳細は小社営業部までお問合せ下さい。内容見本進呈

京都府郷土誌叢刊第一期〔南部〕好評発売中



臨川書店

606 京都市左京区今出川通川端東入 50M
101 千代田区神田駿河台 二—一—一六
☎ 075 721-7111
☎ 03 293-5021